

文化構想学部

School of Culture, Media and Society

Transcultural Studies | Interdisciplinary Studies of Culture |
Studies of Media, Body and Image | Contemporary Literature and Criticism |
Contemporary Human Studies | Social Design and Innovation

早稲田大学

2026



文学部

School of Humanities and Social Sciences

Philosophy | Asian Philosophy | Psychology | Sociology | Education | Japanese Linguistics and Literary Studies |
Chinese Studies | English Studies | French Studies | German Studies | Russian Studies | Theatre and Film Studies |
Art History | Japanese History | Asian History | Western History | Archaeology | Middle Eastern and Islamic Studies

人知の先

人文学とは？

人間とはいったい何か。

社会とは、文化とは何か。

そうした問いに対して、

文明の誕生から現在を経て、

未来へと至る壮大な「時間軸」と、

身近な場所から遠くの世界、

仮想空間まで含む広大な「空間軸」で

向き合い、考えるのが人文学だ。

あなた自身の悩みや不安を解きほぐす糸口、

現代社会の問題を解決するヒント、

そして、より良い未来を考える手がかりも、

人類が蓄積した「知」の中に見出せるかもしれない。

そこに、人文学を学ぶ意味がある。

人

文化構想学部

School of Culture, Media and Society

文学部

へ、

ここは世界でも比類のない
 人文学を学ぶためのキャンパス。
 視点の異なる2学部の多様な学びが協奏し、
 切磋琢磨しながら、人文学の可能性に挑戦する舞台だ。

ここには、
 多様性から生み出される自由、
 そして冒険がある。

知の奥へ。

CONTENTS

どちらの学部もテーマは“人文学”.....	3	教員一覧.....	19
千差万別の切り口で、人文学へアプローチ...	5	学生インタビュー.....	21
教員インタビュー.....	7	在学生にきいてみた!.....	23
知の感性を育てるカリキュラム.....	9	戸山キャンパス.....	25
文化構想学部.....	11	サポート&キャリア.....	27
文学部.....	15	2026年度入学試験情報.....	29

※掲載している学生の学年は取材当時のものです。

どちらの学部もテーマは

〆〆

人文学

99

文化構想学部

学問領域を横断し、 「新たな知」を開拓

学びの

思想

言語

考え方

メディア

美・感性

文学・批評

文化構想学部の学びは、例えるなら「ビュッフェスタイル」。
2年次からは6つの論系に分かれ、自らのコアテーマに合わせて
学部の垣根を越えたブリッジ科目や
オープン科目など数ある科目の中から選択できます。
選択できる幅や数が多く、自由かつ創造的な
アプローチで「新たな知」を開拓し、実践していきます。

例えば 映画・メディアを学ぶなら

メディア・アートと表現の関係を探る

メディア・アートや現代美術の作品をリサーチしながら「表現とは何か？」という問いについて考えていきます。インターネットやスマートフォンが日常に欠かせない今、メディア技術はただの道具ではなく、社会や文化と深くつながる表現の手段となっています。この授業では、一人ひとりが架空の展覧会やイベントを企画し、その内容をカタログにまとめ、発表まで行います。これにより、情報の調べ方や伝え方、企画する力を身につけます。また、パブリックアートやネットプロジェクト、ポップカルチャーなど、さまざまな分野にも目を向けながら、表現の歴史や今の意味を学び、自分なりの視点でアートと社会のつながりを考えていきます。

チェンドミニク教授「表象・メディア論系演習(メディア・アート論)」

例えば 心理学を学ぶなら

時代や文化によって変容する個性の捉え方を学ぶ

人々は互いに異なる存在であり、それぞれに個性があります。しかしその「個性」をどのように捉えるかを考える機会は多くはありません。たとえば、我々は自分や他者を評価する際にはどのような評価軸でみるのか、その評価軸は時代や文化によってどのように変化するのか、さらに何でその評価軸の「良し悪し」は判断されるのか、みなさんは考えたことがあるでしょうか。この授業では、個人差の捉え方や測定方法、個人差把握の歴史や先入観等について「パーソナリティ心理学」に基づき歴史的・社会的状況も考慮しながら論じることで、人間の物事の捉え方、望ましいあり方についてメタ的な視点から考えることができるようになることを目指します。

小塩真司教授「個性の発達と差異」

卒業要件もここが違う

多様な科目を組み合わせ
自分なりの学びを創造できる

所属論系の科目で修得すべき単位数

28単位以上

所属
論系の
科目単位
それ以外の
科目単位

※必修基礎演習、入門講義、学術的文章の作成、基礎外国語、必修英語を除く修得すべき単位数：94単位以上

※両学部とも、2024年度開講科目のシラバスから

同じ人文学をテーマに
異なるアプローチで学ぶ2学部。
学びのスタイルの違いとは？

文学部

テーマを掘り下げ、 「知の本質」を探究

究きわめめる

テーマ

歴史

社会

文化

文学部の学びは、例えるなら「コース料理」。
2年次から18のコースに分かれて、1つのコアテーマを深く、濃く掘り下げていきます。人文学の伝統的な学問の継承、そして発展を目指し深化させること、専門的なアプローチで「知の本質」を探究していきます。

例えば 映画・メディアを学ぶなら

多様な文献から小津安二郎監督作品の真髄に迫る

小津安二郎は、その監督作品が世界的に認められた映画史の正典であるのみならず、彼を論じた著作や論文もまた、その多くが映画理論史・批評史における正典と見なされているという意味で、アルフレッド・ヒッチコックと並ぶ特別な映画作家です。他に類を見ないその独特なスタイルは、ときに万事控えめな日本文化の精髓をあらわすものとされ、またときには支配的な映画制度に対する大胆不敵な挑戦とされてきました。視点や同一化、時間と空間の分節化といった映画理論の基本概念にとっても永遠の試金石である小津作品に取り組んだ代表的文献を順にたどることで、言語によって映画を分析・記述することの可能性と不可能性に向き合ってみましょう。
藤井仁子教授「演劇映像演習12(映画理論系個別研究)」

例えば 心理学を学ぶなら

人間の学習・行動について実験を通じて解き明かす

近年、動物の学習・行動に関する実験的研究を通じて、私たちヒトを含む動物に広く共通する認知機能の基盤が明らかになってきました。この授業では学習・行動研究に用いられる研究手法およびそこから明らかにされてきた学習・行動の基本原則に関して紹介します。それらの理解を通じて、「私たちはなぜ今自分がそうするように行動するのだろうか?」「その行動はどのように形成され、何故今生じるのか?」「私たちの行動はどこまで自由意志の産物なのか?」といった人間の意識・行動に関する根本的な問いに関して、「実験科学」としての心理学がどのように回答しうるのか、一緒に考えてみませんか。

神前裕教授「学習心理学」

卒業要件もここが違う

じっくりと時間をかけて
純度の高い学びを実現

所属コースの科目で修得すべき単位数

50単位以上

それ以外の科目単位
所属コースの科目単位

※必修基礎演習、入門講義、学術的文章の作成、基礎外国語、必修英語を除く修得すべき単位数：94単位以上

APPROACH

文化構想学部

つくる

地域言語を深く知る方法

地域言語の分布や変化を探り、方法論の基礎を修得します。具体的な論文の解説やデータベースから抽出した言語データの分析を通じて、言語研究の実践的な手法を学びましょう。

複合文化論系

性と社会を問い直す

クィア・スタディーズは、人々の性と身体のあり方や社会制度を包括的・学際的に検討する分野です。その学術的視座と現代的意義を概観し、最先端の議論を紹介していきます。

現代人間論系



BL進化論

男性同士の恋愛を描く物語群であるBL(ボーイズラブ)の発展を追いいます。近年は女性差別や同性愛差別を乗り越えるヒントを示すともされ、BLは社会を動かすのか、を考えていきます。

表象・メディア論系

「あっ」と驚く、歴史の世界

教科書やメディアの「常識」を疑い、多角的に日本史・世界史を捉え直します。オムニバス形式で斬新な視点を提供し、学問の深さと面白さを再発見してもらいます。

多元文化論系



表現と読解コードに見るマンガの魅力

本講義では「マンガ」の歴史と多様な表現を概観し、古典的作品を通じて読解コードの変遷を考察します。異なる時代や文化のマンガに触れ、多様な表現の魅力を探りましょう。

表象・メディア論系



文学を読む方法～理解を深める読解論～

文学作品の「面白さ」や「わかりにくさ」はどこから来て、どうしたらそれをうまく言葉にできるのか。読解を豊かにするための方法論を学び、グループワークを通じて理解を深めます。

文芸・ジャーナリズム論系

大衆小説に見出す〈大衆の欲望〉と時代世相

19世紀半ば以降の大衆小説を分析し、読者の欲望と時代背景、マス・メディアの発展、作家の葛藤を考察します。同時に大衆小説の共通する要素を解析していきます。



文芸・ジャーナリズム論系

文化人類学って何?

異なる文化に生きる人々と遭遇したとき、私たちはその状況をどのように理解したらよいのでしょうか。文化人類学を学ぶことで、他なる人々とつながる技法を身につけることができます。



複合文化論系

近現代日本経済史

日本経済の発展を時系列で追いつながりながら、社会との関連に注目して検討していきます。研究史上の論点を学び、今後の課題を考え、現代社会を主体的に考察する視点を養います。

社会構築論系

ラテンアメリカ文学と世界文学の交差

20世紀のラテンアメリカ文学を読み、日本文学を含む世界文学の影響を探ります。ボルヘスやコルタサルらの作品を分析し、後半では日本文学の翻訳と受容を考察していきます。



文芸・ジャーナリズム論系

文学における異文化受容

古代から現代までの文学作品を通じて、異文化の受容と変容を考察します。作品の背景にある文化や思想、価値観の影響を探り、いかに独自の視点が生み出されているかを探っていきます。

複合文化論系

グローバル化を社会分析する

急激なグローバル化に伴う社会問題を学びつつ、社会学の基礎理論や分析手法を習得します。社会の変化を理解し、当たり前を疑う視点を養っていきましょう。



社会構築論系

海外で暮らす華人たちのリアル

国境や国籍に縛られることなく移動・連携する海外華人の歴史的背景や社会的事情を学び、彼らの果たす文化的・経済的役割について具体的事例を通じて考察します。

多元文化論系



東欧のナショナリズム

なぜ近現代の東欧の人々は国家や民族のために命を懸けてまで戦ったのか? 歴史的背景やナショナリズムの理論を学び、近現代ヨーロッパ・現代世界の問題と結びつけて考えます。

多元文化論系

知っているようで知らない「天皇制」

天皇制の歴史から女性天皇の歴史とは是非、国際比較など多角的な視点から議論し、理解を深めます。「正解」ではなく、皆で考え、討論することに重きを置き進めていきます。

社会構築論系

身近な問いから考える倫理学

トロッコ問題や死刑制度など、私たちが悩ませる倫理的問題を考え、広い視野と的確な判断力を養います。応用倫理学の多様な問題に触れ、倫理的な視点の形成を目指しましょう。

現代人間論系

ドラマトゥルクの視点で見る社会とダンス

ドラマトゥルクの歴史と役割を学び、代表的な著作を紹介し、できるだけ多くのダンス作品に触れて、現在起きている様々な事象と重ねて考える習慣づけをしてほしいと思います。

表象・メディア論系



「生」と「死」

生と死に関する思想の変遷や学校教育の実践を学び、発達段階に応じた教育方法を検討します。地域社会における高齢期の学習にも着目し、その在り方を主体的に考察します。

現代人間論系



千差万別の切り口で、 人文学へアプローチ

※両学部とも、2024年度開講科目のシラバスからの抜粋です(2025年度は休講の科目も含まれます)。

シラバス検索
<https://www.wsl.waseda.jp/syllabus/JAA101.php>



文学部

究^{きわ}める

はじめましての 分析哲学

19世紀の終わりから現代まで英語圏を中心に行われてきた哲学の営みを「分析哲学」と呼びます。分析哲学で扱われるトピックごとに、その多様な考えを紹介していきます。

哲学コース

社会主義 リアリズムと芸術

1930年代以降に発達したソヴィエト・ロシアの社会主義リアリズムを中心に、ナチス・ドイツやファシスト期イタリアの芸術と比較し、その文化史の意味を考えます。

ロシア語ロシア文学コース

「心」と「身体」

「心」の働きを支える脳や神経系を中心とした「身体」の働きを学んでいきます。神経系の基礎から感覚・知覚、学習・記憶、感情まで、生理心理学の視点で解説します。

心理学コース



アメリカ詩の 世界に親しむ

19世紀以降の代表的なアメリカ詩人の作品を英語原文で精読し、多元性の視点から詩の本質に迫ります。「いまここで」自分が生きる意味と学問の接点を探りましょう。



英文学コース

戦後日本のナショナリズムと 学校歴史教育

社会意識とはいかなるものかという問いに始まり、ナショナリズムと歴史教育を軸に、戦後日本の社会意識の変遷を探ります。実際の出来事を通して社会と教育の循環的關係を考察します。

社会学コース



教育を哲学的 に見つめ直す

さまざまな教育思想を学びながら、自分たちが受けてきた教育や当然視してきた教育観を見つめ直します。文献購読と履修者同士の対話を通じて、教育の意義や暴力性について探究します。



教育学コース

汗をかく 歴史学

フィールドワークで獲得した出土木簡、碑文や少数民族地域などの「資料の史料化作業」を通して、東アジア史研究の主流である文献実証史学再構築を目指します。



アジア史コース

漢文で 『老子』を読む

『論語』と双璧をなす最も基本的なアジアの古典である『老子』の思想を漢文で読み解き、「自然」に基づく倫理を学びます。漢文訓読入門としても役立ててほしいと思います。

東洋哲学コース

近現代 フランスの 美術と 視覚文化

近現代の美術や視覚文化について、フランス語論文の訳読や研究発表を通じて考えていきます。印象派やキュビズムなどの重要な芸術動向、写真、ポスター、マンガなど、多様なテーマを扱います。

フランス語フランス文学コース



映画を楽しむ 新たな視点

映画研究という学問への入口となる講義です。映画の歴史を学び、映像表現の分析方法を身につけ、映画を理論的に考えることで、映画をより深く楽しむための視点を養います。

演劇映像コース

造形芸術記述

18世紀以降のドイツ語による造形芸術記述を精読し、絵画や彫刻などを言語で再現する「エク frasiss」の技法を学びます。ドイツ語読解力の向上と芸術作品への理解を深めます。



ドイツ語ドイツ文学コース

環境が生んだ 日本の歴史と文化

私たちの生活や思考は、地理や気候、宗教、食文化など多様な「環境」に基づいています。自然環境や衣食住、思想、倫理観などを通して、日本史における「環境」の影響を考察します。

日本史コース

中世ヨーロッパ世界の 成立と発展

中近世ヨーロッパ世界は、ゲルマン文明とキリスト教文明の融合を背景にその原型が形作られました。政治・経済・宗教など様々な視点から中世ヨーロッパ世界の成立と発展を考察します。

西洋史コース

考古学を支える 測量技術の体得

発掘調査に必要な測量技術を、座学での概要説明と実際の機材を使った実技実習を通じて習得します。発掘情報の記録で要求される、正確で客観的な記録方法が身につきます。



考古学コース

前近代のアラブ・ イスラーム史

人類社会の政治・社会・文化の多方面に大きな影響をもたらした、7世紀のイスラーム共同体の成立と発展を軸に、前近代イスラーム時代の中東・西アジアの歴史を学びます。

中東・イスラーム研究コース

やまと絵の技法と主題

平安時代に成立し、中・近世を通じて描き継がれたやまと絵について学びます。作品や史料の分析方法を身につけ、絵師や注文主、コレクション形成史について考えます。

美術史コース



唐詩を読む

唐詩を中心に中国古典詩を鑑賞・分析していきます。詩人の生涯や詩風、歴史的背景を学び、中国古典詩全体への理解を深めてもらいます。漢詩の基礎知識を習得できます。

中国語中国文学コース

文化構想学部

准教授

溝口 彰子

MIZOGUCHI Akiko

専門はジェンダー論、視覚文化研究など。上智大学外国語学部卒業。ファッションとアートの仕事をを経て、米国ロチェスター大学大学院ビジュアル&カルチュラル・スタディーズ・プログラムにて博士号取得。2023年より現職。YouTubeチャンネル「BL with AKIKO」ではBL情報を英語で発信。

アメリカの大学院で博士号を取得した私の論文テーマは、BL（ボーイズラブ）と女性のセクシュアリティーズです。BLの歴史をたどるとともに、2000年代以降の商業BLにおいて、ホモフォビア（同性愛嫌悪）を乗り越えるヒントを示す“進化形”の作品が増えていることを論じました。この論文をもとに日本語でまとめた書籍は中国語と韓国語にも翻訳されました。現在は、近年増加している実写映像作品も含めて、表象が我々の価値観や現実の制度にどう影響しているのかという根源的な問いをBLの側から考える研究を英語で進めています。

マンガや映画はエンタメであると同時に、ときに人の命を救い得るほどの影響力を持ちます。日常で触れるドラマや映画やマンガに、心を揺さぶられたり、あるいは腑に落ちないものを感じたりした経験が皆さんもあるでしょう。視覚文化研究とは、学際的な理論を駆使して、そんな「ワクワク」や「モヤモヤ」を言語化すること。私のBL研究は、BLの祖先である1970年代の「美少年漫画」のおかげで自分が同性愛者であることを受け入れられたことに気付いたことで始まりました。自分にとって思い入れのある作品を学術的に分析することは、自分の価値観や審美感を確かめ、他者と連帯し、生を充実させることでもあります。



ビジュアル作品に対する自分の中の
ワクワクやモヤモヤを言葉に

演習紹介 「イメージ文化ゼミ」

テレビやネット動画、映画、マンガ、広告、美術など、さまざまなイメージ文化の中で表象されるジェンダーとセクシュアリティについて考えるゼミです。英語圏の大学生向けの視覚文化入門書をベースに基本理論を学ぶほか、実作品の分析に取り組み、自身の「好き」や「モヤモヤ」を言語化するスキルを磨きます。作り手をゲストに招いて制作背景を学ぶ機会も設けています。



受講学生の声

- LGBTQの正しい知識を得ても、タブーを恐れて言葉ばかりに気を取られる環境に問題意識を持ち、ドラッグクイーンの方のお話を伺いたいという願いを叶えていただき、実際にブルボンヌさんのお話を聞くことができ嬉しかったです。一人一人考えが違う中で、第三者や世の中が枠組みを決めてしまうのではなく、社会にいる私たち全員が多様な身体があって個人差があるということをもっと意識していくべきと感じ、他人や社会と比べるのではなく、ありのままの自分自身を認めることで自己肯定感にも繋がってくるのだと思いました。



BLの重要な祖先といえる萩尾望都さんとのトークショー



女装パフォーマー／ライター ブルボンヌさん ゲスト講義

日本や欧州とは異なる視点から

見えてくる世界の広さがある



13 ~16世紀にかけて、イスラーム世界の政治・経済・文化の中心として繁栄したマムルーク朝について研究しています。エジプトの国立図書館や公文書館には、マムルーク朝時代に書かれた歴史書や法学書、寄進文書などが保管されています。読み解いていくと、当時の国家や社会の姿だけでなく、人々のライフ・ヒストリーや家族観なども浮かび上がります。同じ史料でも、どこにフォーカスして読むかで得られる情報は違ってきます。歴史研究の面白さであり、研究者の経験値やセンスが問われるところでもあります。

私がマムルーク朝に心惹かれたのは、学生時代に読んだ研究書がきっかけです。さらに遡ると1991年に起きた湾岸戦争が、中東地域に目を向ける最初の契機になりました。昨今の中東情勢に関するニュースを、関心を持って受け止めている人も多いことでしょう。「今何が起きているか」だけに注目するのではなく、そこに至るまでの歴史的背景を100年、200年と遡って見ていくことが大切です。現在起きている事象をより正確に理解する助けになるからです。

近代の学問の多くはヨーロッパ起源であることから、私たちの認識の枠組みそのものが、実はヨーロッパ中心主義の影響を多大に受けています。大学での学びを通して、自らの価値観や尺度を相対化する視点を養い、“世界の広さ”を知ってほしいと願っています。

演習紹介 「中東・イスラーム研究演習Ⅰ」

中東・イスラーム研究コースに進級した2年生の必修演習です。研究に必要な資料・データの収集方法を習得し、それらを批判的に読み、まとめる力を養います。学生の関心はアラブポップス、イラン映画、パレスチナ文学、ハラールフードなど多様です。現地の情報を得るためにも言語の習得は大切。アラビア語をはじめとして多数の言語を学べる早稲田の環境を大いに活用してください。



受講学生の声

- 中東・イスラーム研究は対象とする分野が広く、誰もが興味のあるテーマを見つけ学問として究めることができます。発表準備を進める中で、研究に不可欠である文献を批判的に読み、まとめる力を身につけられるだけでなく、質疑応答に参加し知識を吸収することもできます。先生との距離が近く、疑問点は何でも相談できる恵まれた環境の中で、学ぶことの楽しさを実感できます。



マムルーク朝時代の学院(カイロ)：
運営方法を定めた寄進文書が残されている



学生と一緒に文献を読み、議論します

IGARASHI Daisuke

専門は中世アラブ・イスラーム史。中央大学大学院文学研究科東洋史学専攻単位取得退学。博士(史学)。東京大学次世代人文学開発センター特任研究員、中央大学非常勤講師などを経て現職。大学院時代には青年海外協力隊員としてシリアで2年間、古文書の整理作業に従事した経験も。

自分だけの人文学を
探究できるシステム

4年

4年間の学びを修める

Spring

Fall

ゼミ論文

卒業研究

オプション科目 など

- 美術史コース
- 日本史コース
- アジア史コース
- 西洋史コース
- 考古学コース
- 中東・イスラーム研究コース

卒業論文

カリキュラムは変更になることがあります

✓ 英語を伸ばしたい

必修英語・選択英語

実践的な4技能を学ぶ授業が多く、2024年度は英語科目だけで約250科目も開講されました。全員が必修英語を通じて2年間学び、基礎的な英語力を身につけます。また、さらに発展的な学習を希望する場合は選択英語で様々な分野に興味関心を広げることができます。

✓ 1年次は週4回、英語以外の外国語を学ぶ

基礎外国語

外国語を学ぶことは、これまで出会ったことのない文化に飛び込むきっかけになります。また、異なる視点で自分自身の文化を見直すこともできます。1年次の基礎外国語は、フランス語、ドイツ語、ロシア語、中国語、スペイン語、イタリア語、朝鮮語、アラビア語の中から1言語を選びます。「週4回」の学びの環境は、短期間に繰り返すことで習得を早める効果があります。また、2年次以降も「選択外国語」で自分らしい学び(語学上達・文化理解・留学準備・資格取得)ができるようになります。

✓ 様々なクラスメイトとのつながり

文化構想学部・文学部ともに規模の大きな学部ですが、「必修基礎演習」と「必修英語」は同一学部のクラスで学びます。「必修基礎演習」では大学で学ぶうえで必要な「読む力」と「書く力」を文化構想学部・文学部のオリジナルテキストで学びます。また、1年次の「基礎外国語」では文化構想学部・文学部の学生が混在するクラスで週4回学びます。初年次のクラスは、様々なバックグラウンドを持った学生同士が交流をする機会にもなります。

ブリッジ科目

文化構想学部と文学部は、ブリッジ科目としてすべての講義・選択英語・選択外国語の科目を共有しています。両学部の幅広い学問分野のスケールメリットを活かし、論系・コースの垣根を越えて約1,100ものラインアップの中から、履修科目を選択することができます。

約
1,100
科目

1・3制カリキュラム

1年次の論理的思考・表現の基礎教育を経て、2年次から論系・コースへ進級して専門性を磨く「1・3制カリキュラム」を導入しています。1年間各学問分野の学びを吟味してから、自分の興味のある分野を選択することが可能です。

1年次

2・3・4年次

文化構想学部

新たな学びの創出を。
熟考と選択を積み重ね

DEAN'S
MESSAGE



文化構想学部では2年次から論系と呼ばれる専門の課程に分かれます。「多元文化論系」「社会構築論系」など全部で6つある論系の名称はどれも、皆さんにとって何だか聞き慣れず、具体的な学びのイメージが湧きにくいかもしれません。既存概念と結びつきにくいこれら論系の名称にも、従来の学問領域の枠を超えて新たな知の創出を目指す、文化構想学部の特色が表れているといえます。そしてもう一つの意図として、名前からイメージが湧きにくいからこそ、「これはいったい何を学ぶところなんだろう」と受験生の皆さんに自分で調べてもらう、そのための仕掛けでも私には理解しています。

自分でよく調べた上で選ぶという姿勢は、文化構想学部の4年間の学びにおいても重要です。カリキュラムの自由度が高く、科目の選択肢も多いため、論系に進んでからも学びの組み立て方は一人ひとり違ってきます。数多くある選択の場面で、一つおすすめしたいのが、早稲田大学の研究者データベースなどを活用して、各教員の専門分野や研究内容を調べてみることです。そうすることで担当科目名だけでは分からない、それぞれの教員の専門性の根っこの部分が見えてきます。自分の興味関心につながる講義やゼミを選ぶ手掛かりになるでしょう。表面的な情報だけで判断するのではなく、熟考の上で選択する経験を積みながら、自分だけの新たな学びを文化構想学部でつくりあげてほしいと願っています。

柳澤 明 文化構想学部長

YANAGISAWA Akira

早稲田大学第一文学部東洋史学専修卒業、同大学院文学研究科史学(東洋史)専攻修士課程修了、同博士後期課程退学。早稲田大学文学部専任講師、助教授を経て、2006年より早稲田大学文学学術院教授。現在は文学学術院長ならびに文化構想学部長を務める。専門分野はアジア史、清朝史。30年以上前に留学先の北京でバードウォッチングの楽しさを知り、現在まで続く趣味に。清朝時代の鳥類図鑑に関する論文も執筆。

現代、未来の社会を生きる「知」を構想する学び。 学問領域を横断し、変化に対応する創造力を磨いていく。

多元文化論系

地域文化の多様性と流動性、融合性を総合的に検証する

世界には長い年月を経て培われてきた各地域固有の文化がある一方で、異なる文化が交わり創造される新しい文化もあります。グローバル社会において、その相互関係は強まってきています。本論系では多角的に形成されてきた多様な文化のありようを、その流動性と融合性に着目し総合的に研究することを通して、現代世界の多様な価値観を体系的・横断的に捉えられる幅広い視野を持った人材を育成します。

■ 英語圏文化プログラム

21世紀の今、英語圏世界は地理的にも大きく広がり、私たちが受容する文化もハイカルチャーから民衆文化まで広範囲に及びます。また、英語教育のあり方を検討しつつ総合的な英語能力の向上をはかることも本プログラムの重要な目標となっています。

■ ヨーロッパ文化プログラム

ヨーロッパ世界とその周辺世界とを並べてみると、それらの間の微妙な移り変わりや重なり合い、そして差異の存在にあらためて私たちは気づかされます。それらの世界の歴史的・地域的に多様な要素を認識しつつ、時間的・地域的差異と共通の要因を見極めていきます。

■ アジア文化プログラム

日本を含むアジア地域における、古代から近現代に至る文化の諸事象や古典の叡智、文化交流について、文学・言語・思想・政治・宗教・社会・芸術・歴史学などを広く視野に収めつつ、多角的にアプローチします。

■ 中東・イスラーム文化プログラム

中東・イスラーム分野を専門的に研究するプログラムは、早稲田大学のみならず日本全体でも貴重です。本プログラムでは、グローバルな課題に焦点を当てつつ、中東・イスラームの社会・歴史・文化について体系的に学ぶことができます。

■ Global Studies in Japanese Cultures Program (JCulP: 国際日本文化論プログラム)

日本文化を世界的な視野のもとに学び、かつその成果を広く世界に向けて発信できる人材の育成を目指して発足し、英語で実施される授業のみで卒業要件を満たすことを原則としたプログラムです。特別な選考を経て入学した日本学生と海外学生がともに学びます(詳細はP.14)。

【演習科目例】

英語圏の言語政策 英語教育の諸問題 ローマ世界 現代ヨーロッパの諸問題 ヨーロッパとアジアの接触 東アジアの国際秩序 仏教文化交流 遊牧・オアシス文化論 イスラーム社会論 Global Tokyo など

【ブリッジ科目例】

アメリカ音楽の世界 英米演劇の伝統と変容 地中海文化概論 東欧世界とその歴史 アジアの近代 アジアの思想的基盤 チベット文化論 アジア社会とイスラーム イスラーム文化世界 日本史・世界史再発見 など

複合文化論系

時空を越えた複合的な文化の構造を解明する

本論系の研究対象は幅広く、衣食住から、言語、文学、芸術、哲学、思想、宗教、美意識、メンタリティー、政治、経済、医療、さらには国際関係をも内包。各領域は独立しているようでいて、実は強く結びついています。地域や時代、既存の学問ジャンルの枠を超え、各文化圏相互の関係分析や比較研究を行うことにより、人間が織り成す文化の複合的な構造を根本から解き明かすことを目指します。

■ 言語文化プログラム

人間のあらゆる精神活動の基盤である言葉について、言語学の基礎を踏まえつつ、各自の関心を満たす多様なテーマと研究の場を提供します。

■ 人間文化プログラム

時間と空間の枠組みを超え、人間文化の複合的諸相を統合的な視点に立って解明。フィールドワークを重視し、理論と実践をカバーします。

■ 超越文化プログラム

現代社会の諸問題から未来を展望するとともに、言語・民族・国家・時代を超えて多様に連関する文化活動・社会活動を比較・対照します。

■ 感性文化プログラム

知覚や感情といった人間の感性面の研究を起点として、共感による他者理解の問題など哲学的テーマを探究すると同時に、生活文化とアートの新たな創造的可能性を模索します。

【演習科目例】

言語と文化 文化人類学入門 メディアと異文化コミュニケーション ジェンダー人類学 世界の造形芸術 比較言語学研究 広告にみる異文化コミュニケーション など

【ブリッジ科目例】

言語学入門 ヨーロッパのことばと文化 異文化受容と文学の変容 芸術と社会 アジアのジェンダーとセクシュアリティ 生活環境美学 文化人類学の最前線 など

表象・メディア論系

芸術文化のさまざまな活動を多様な切り口から分析する

人類が生み出してきた多様な芸術文化活動を、「メディア」「身体」「イメージ」という3つの切り口から分析します。表象とは、世の中の事物、観念、出来事などに何らかのイメージを与え、別の形に表したものです。3つの視点を交差させ、表象文化の作品・イメージ群を芸術史や美学、作家論などの既存の枠組みから解放し、政治・経済、諸文化の歴史的背景との関連性を考えていきます。

■ メディア論プログラム

伝統的な人文科学や社会科学に加え、領域を横断する複合的な視野から多様なメディアの諸相と将来を分析し構想します。メディアの現在・過去・未来を見通す広い視野と深さを兼ね備えた、総合的なメディア学の構築を目指します。

■ 身体論プログラム

身体は私たちに最も生きている実感を与えてくれるはずのものです。現代のそれはバーチャル化され、実感を失い、浮遊しつつあります。そうした人間の身体とどのように向き合うべきかを考えます。

■ イメージ論プログラム

映像や造形芸術はもとより、言語芸術の中にもふんだんに存在するイメージを研究対象とし、時代やジャンルを超えて理論的・原理的に追究していきます。

【演習科目例】

デザイン・フィクション・ワークショップ ゲームデザインの考現学 芸能文化論 映画文化論 イメージ文化のポリティクス ヴィジュアル・カルチャー論 ポピュラー音楽論 消費社会とメディア など

【ブリッジ科目例】

サブカルチャー論 映像メディアの社会学 メディア・アートとデジタル表現 パフォーマンス・スタディーズ メディア論 身体論 ダンス論 広告イメージ論 演劇文化論 マンガ文化論 コンテンポラリー・アート 実物のアウラ など

※科目例は、2024年度開講科目からの抜粋です(2025年度は休講の科目も含みます)。

文芸・ジャーナリズム論系

世界と人間の多様性を学び、新しい文化的価値の創出を目指す

本論系では、文学や文化現象について国や言語に縛られずに領域横断的に学びます。世界文学研究やジェンダー・セクシュアリティ研究などの方法論を学びながら、文芸・文化作品の読解を通じて世界の諸地域と人間存在の多様性についての理解を深めます。他者への深い関心と理解を胸に、新たな文化的価値の創出を目指す学生のみなさんをサポートします。

■ 本論系の学びの特色

- ・近現代の作品を中心に、児童文学、エンタメ、ノンフィクション、詩歌、戯曲、批評・評論、エッセイなどさまざまな文芸ジャンルに関する知見を深めることを目指します。
- ・世界文学研究、ジェンダー論、ポストコロニアル研究、翻訳論など、文学や文化を批評的に考察し、論じるための方法を学ぶことができます。
- ・学術的な知識や方法をしっかりと身につけることが中心の論系です。そのなかで創作や批評や翻訳を学べる演習やゼミがあります。

【演習科目例】

小説表現 近代からの日本の文学 現代文芸・文化 テキスト論 同時代文学論 翻訳表現 短詩型表現
ノンフィクション表現 メディアと文芸 など

【ブリッジ科目例】

現代小説表現 現代文芸・文化論 文芸批評理論 文学とジェンダー 世界文学論
日本近代文学とマスメディア 横断文学論 マイナー文学論 翻訳文化論 児童文学 など

現代人間論系

現代社会をともに生きる人間のあり方を探求する

古来よりあらゆる学問が抱えてきた「人間とは何か」という問いは、価値観が多様化し、あらゆる事象が複雑化・多元化する現代においても大きな命題です。本論系では、人間に対して心理学、社会学、倫理学、宗教学、教育学、社会福祉学など多彩な分野から多面的にアプローチ。既存の学問的枠組みを超えた融合と創造をもって、現代社会の諸問題に立ち向かう叡智を備えた人材を育成します。

■ 「多様性を生きる人間」論プログラム

論系全体のテーマ「ともに生きる」に、多様性という第二の主題を接合するプログラムです。ジェンダーとセクシュアリティ、ディスアビリティ、人種とエスニシティに关する研究を基軸とし、社会学、文化研究といった学問的手法によって、現代を生きる人間の多様性とその生の諸相にアプローチします。

■ 「関係を生きる人間」論プログラム

現代社会が抱えるさまざまな問題を産み出す社会的メカニズムに対して、人間関係、子ども・若者文化、規範意識、高齢社会の生と死、の観点から理解を深め、社会学、教育学、倫理学のコラボレーションによって、そうした諸問題を解決するために何がなされるべきかを探求します。

■ 「発達を生きる人間」論プログラム

人間の成長・発達と現代の社会とのかかわりを総合的に学ぶプログラムです。ひとりの人間は生まれてから死を迎えるまで変化し続けます。その変化の様相は個人で異なると同時に、全体としても一定の共通したプロセスやパターンを見出すことができます。このプログラムでは、社会学や心理学の学問的枠組みを中心とし、人間の発達や個性の形成、人生のあり方やその意味について、理論面と実証面の双方からアプローチします。

■ 「心身を生きる人間」論プログラム

心と体は、私たち人間の基本です。心と身体の関係、そしてその総体としての人間のあり方を探究するのがこのプログラムです。心身の健康と幸福をいかに育むか、死や生命に関わる倫理的な問題にどう答えるか、心や魂を巡る議論の歴史は私たちに何を教えてくれるか、そして人間の生活を変えるAIなどの科学技術とどう向き合うか。心身に関わる多様な問題に、心理学、哲学、宗教学、倫理学を含む多角的な観点、方法から取り組みます。

【演習科目例】

マクロコスモスとミクロコスモス 環境問題の論理と倫理 生命・医療の論理と倫理
サイバー空間の論理と倫理 心をもみる クリア・スタディーズ 福祉社会の臨界 現代人と情報科学
心身の健康と幸福 ボディワークの理論と実践 現代社会とAI など

【ブリッジ科目例】

クリア・スタディーズ入門 セクシュアリティの社会学 社会倫理学 コミュニケーション論
応用倫理学 AIと人格 日常生活の社会学 個性の発達と差異 発達障害の心理臨床 福祉社会論
子ども・若者支援と共生社会の形成 障害学 心身論 スピリチュアリティと世界 など

社会構築論系

過去に学び、現在を知り、未来を拓く

本論系では、歴史と理論と実践の一体化を通じて新しい社会の創出を構想することを目指します。社会の矛盾や問題点を挙げ、それらを克服する新たな社会構築の方法と主体のあり方を構想します。歴史・文化に関する豊かな知見を現実の社会と結びつけ、社会の問題点を見いだす鋭い感覚と、それを解決するための力を持った人材を育成します。

■ 国家・ダイナミクスプログラム

人の集合体としての社会にはさまざまなレベルのものが存在しますが、中でももっとも基本的な単位として認識しうるのが国家です。本プログラムは国家のかたちや役割を歴史的に広く見渡すとともに、国家を超える力学にも目を向けます。

■ コミュニティ・創造プログラム

現代社会には、実生活の場としての地域や都市の他に、ウェブ上のコミュニティなどの実体のないものもあります。本プログラムは、こうした新たなコミュニティの問題と、リアルなコミュニティにおける住民の自治やその歴史、文化遺産の保全と活用などを考えます。

■ グローバル社会・共生プログラム

グローバル化のさらなる進行を踏まえた社会変化に対応し、本プログラムでは、共生という視点からグローバル社会を検討します。歴史的な視点から問うとともに、フィールド調査なども交えながらグローバルな視野をもって現代社会を分析します。

【演習科目例】

グローバル社会 国家の交流と対立 国家の成り立ちと形成 国家の拡張と成熟 国家の構造と変容
国際社会と国家 コミュニティ構造論 サステナビリティ論 人権論 地域・都市形成史 地域社会と国家
文化遺産論 平和論 など

【ブリッジ科目例】

国家形成論 アジア社会の動態 西洋地域社会論 日本社会の動態 地域・都市論 市民活動論
平和・人権論 社会システム論 ジェンダー論 トランスマンショナル関係論
グローバル時代の戦争とジェンダー など

国際日本文化論プログラム

What's JCuIP? JCuIPは、古典文学から現代のポップカルチャーまで、さまざまな日本文化についてグローバルな視点から英語で学ぶことで、当たり前のもとして見過ごしてきた日本の歴史や伝統、習慣や考え方を「新たな角度から捉え直す」ことを試みる英語学位プログラムです。英語を使うことで、これまでとは異なる角度から日本文化の中にある多様性や世界の文化との共通性などへの理解を深め、また、異なる文化背景を持つ人々と日本文化について

語り合い、論じあう力をつけることが可能になります。この試みを通じて、一方的ではなくお互いの文化を大切に共生していく道をひらくことのできる、真のグローバル・コミュニケーターを育てることを目指します。

JCuIPは文化構想学部 多元文化論系の中のプログラムの1つであり、JCuIP独自の入試(P.30)で入学した場合のみ所属可能です。他の入試で文化構想学部に入学した場合、2年進級時の専門(論系)選択にあたってJCuIPを選択することはできませんのでご注意ください。

JCuIP 国際日本文化論プログラム 3つの特長

1 日本文化を英語で学ぶ

基本的に授業の言語は英語のみ。古典・歴史からアニメなどのポップカルチャーまで、日本文化を幅広く融合的に学び、学習や研究の成果を英語で論じ、表現します。

2 クラスの半数が海外学生

異なるバックグラウンドを持つ多様な学生と交わることで、互いに刺激し合いながら、新たな側面から日本文化を見つけ直します。

3 1年次は海外大学短期留学

日本学生は1年次の夏に Summer Session (海外大学短期留学)に参加。9月に入学してくる海外学生を迎え入れる前に、英語力を集中的に高めます。

Summer Session (海外大学短期留学)

- SOAS, University of London
- University of California, Berkeley
- University of Sussex
- University of Brighton
- University of California, Los Angeles
- Yale University

※留学先の候補は変更になることがあります

[CURRICULUM 日本学生の場合]

		1年				2年				3年				4年			
		Academic Skillsの習得 海外学生の合流				テーマに基づき 調査・分析・発表				興味のある分野の特定に 向けた科目履修				論文作成 (4年間の集大成)			
		Spring	Summer	Fall	Winter	Spring	Summer	Fall	Winter	Spring	Summer	Fall	Winter	Spring	Summer	Fall	Winter
専門を学ぶ	発展	9月 海外学生入学												ゼミ論文			
	応用	論系ゼミ(研究テーマを追求する)												専門演習(調査・研究・発表の実践)			
	基礎	希望者は留学が可能												講義科目(日本文化を英語で学ぶ)			
広く学ぶ		ブリッジ科目(文化構想学部・文学部共通の日本語による講義科目)															
		グローバルエデュケーションセンター、他学部、他大学設置科目															
英語のスキルを磨く		Academic Skills in English				Summer Session				1年次に海外大学へ短期留学				日本文化+αの科目も学べる			

※日本学生と海外学生はカリキュラムが異なります。

カリキュラムは変更になることがあります

[INTERVIEW]



文化構想学部
西俣 仁衣奈さん
Nishimata Nina
福岡県・
福岡雙葉中学校・高等
学校出身

グローバルシチズンの視座で、日本文化を世界に拓く

高校時代、インバウンド向け漫画アニメツアーリズムのイベントに英語案内ボランティアとして参加し、クールジャパンコンテンツの世界的なパワーを体感しました。この経験から「日本文化を世界に発信したい」と考えるようになり、専門性と国際性の両方を養えるJCuIPを志望しました。授業では、日本文化(宗教思想や伝統芸能からポップカルチャーまで)を多層的に学び、調査・分析・提言(英語論文やプレゼンなど)までを一貫して行うため、自らの知見を世界に投じるための構想力と発信力も磨かれます。



准教授
ピタルク パウ
Pau Pitarch-Fernandez
Ph.D(日本文学)
Columbia University
(研究テーマ)
近代日本のメディア、
ジャンル小説など

Rediscover Japanese culture at JCuIP

The world is talking about Japan. Do you want to be part of the conversation? At JCuIP you will be able to delve into the many facets of Japanese culture, from traditional arts to modern media, in a diverse classroom with personalized attention from day one. Our interdisciplinary curriculum will help you explore multiple viewpoints, and hone your skills to contribute as global citizens in the 21st century.

詳細は
文化構想学部
Webサイトへ



文学部

深く広く張った根を
未来へと伸びる礎に。

DEAN'S
MESSAGE



文学部には伝統的な人文学の学問領域を網羅する18の専門コースが設置されています。2年次からコースに進級し専門的な学びを進めていく上で、ぜひ意識してほしいのが、自分自身の内面的な思考を徹底して深めることです。関心のあるものごとについて、インターネットの情報やAIが出す答えだけで知ったつもりになるのではなく、さまざまな本や論文を読んで調べてみるのがその一歩になります。その上で、自分の頭が破裂しそうに思えるほど脳細胞をフルに使うって考え抜き、感じたことを言語化する力を高めていく、この一連の経験を大学で積み重ねてほしいと思います。文学部の大きな特色である卒業論文の執筆は、何よりの好機となるでしょう。

こうして培われる、専門性に裏づけられた深い洞察力をタテの力とするなら、ヨコの力となるのが領域横断的な教養です。文学部では多種多様なブリッジ科目や全学オープン科目を通して、幅広い教養を身につけられる環境が整っています。単に大きく広げるよりも、むしろ、多くの選択肢からいかにうまく絞り込んでヨコの力を伸ばすかが重要になります。

自らの内側へと深く掘り下げると同時に、広く外の世界に目を向けて関心や知識を育てていく、その内と外との引っ張り合いが、自身を高めることにつながります。タテとヨコにしっかりと張った根は、未来へと伸びる土台となり、定まった道などない人生を自分で切り拓いていく支えにもなるはずです。

谷口 眞子 文学部長

TANIGUCHI Shinko

早稲田大学第一文学部東洋史学専修卒業、東京都立大学大学院社会科学研究所社会人類学専攻修士課程修了、早稲田大学大学院経済学研究科日本経済史専攻修士課程修了、同大学院文学研究科史学(日本史)専攻博士後期課程退学。博士(文学)。早稲田大学文学学術院准教授を経て、2015年より同教授。現在は文学部長を務める。専門は日本近世史。大学時代の印象深い思い出は3週間かけてタイを旅して回ったこと。

創設より受け継がれた「知」の財産を深化させる学び。
伝統を継承し、時代に沿った専門性を究めていく。

哲学コース

世界の意味や 自分のあり方を考える

哲学は、世界を全体として考察することにより、私たちにとって世界が持つ意味や、世界に生きる自己のあり方を探求する学問。本コースでは、古代から現代に至る哲学の諸領域に対する15の演習と卒論演習により、現代的な視点から哲学的問題を考察するように努めます。

【演習科目例】

古代ギリシア哲学 中世哲学 英米哲学／現代哲学 ドイツ哲学／近代哲学 ドイツ哲学／現代哲学 フランス哲学／現代哲学 宗教哲学 美学／近代日本哲学 現代倫理学／応用倫理学 など

【ブリッジ科目例】

哲学 美学 宗教学 哲学専門講義 など

東洋哲学コース

アジアの思想・宗教・文化を 探究する

多種多様な叡智や思考が盛り込まれた東洋の古典は、人々の知恵の宝庫です。本コースの学生は南アジア(インド)と東アジア(中国・日本)を中心に、アジアの思想・宗教・文化を広く複合的に研究することができます。そこから、東洋の世界観・人間観・自然観などを学ぶことも可能です。

【演習科目例】

中国古典思想 日本古典思想 インド哲学 中国哲学 日本宗教 など

【ブリッジ科目例】

インド哲学特論 日本思想特論 中国哲学特論 東洋思想特論 中国思想の世界 仏教漢文の世界 仏教概論 日本思想概論 儒教概論 インド思想史 道教概論 日本中世思想 日本近世思想 漢文講読 など

心理学コース

行動と意識を 科学的に探究する

心理学コースは、心理学における多方面の専門教員で構成され、基礎から応用までをカバーする国内でも数少ないコースです。社会的動物である人間を、心理学・生理学・神経科学の手法を用いて多面的に研究します。社会-心理-神経生物学的側面を学べるよう多面的なカリキュラムを用意しています。

【演習科目例】

心理学実験 心理統計実習 心理学研究法 実験計画実習 心理学論文講読 学習心理学実験 生理心理学実験 心理的アセスメント 発達評価法 知覚心理学実験 社会心理学実習 など

【ブリッジ科目例】

行動の科学 心と体の世界 心を測る 認知のシステム 心理学の歩み 学習心理学 神経・生理心理学 知覚・認知心理学 言語心理学 経済心理学 司法・犯罪心理学 感情・人格心理学 臨床心理学概論 精神疾患とその治療 健康・医療心理学 など

社会学コース

理論的・実証的に 社会との関係を追究

人と社会の関わりについて考察し、社会生活のあり方を探究するのが社会学です。実証研究を通して理論化し、事象への光のあて方を変えることで、背後にあるさまざまな真理を浮き彫りにします。本コースでは、社会学の基礎から専門領域での研究に必要な技法までを幅広く学習します。

【演習科目例】

社会学史・社会学理論 社会変動とライフコース 災害とコミュニティ 共生社会学・教育社会学・文化社会学 集合行動論セミナー 日常を問いなおす 比較社会学 ナショナリズムと社会意識 など

【ブリッジ科目例】

データ解析(質的分析) グローバリゼーション論 集団・組織論 現代家族論 現代社会への視角 社会学特論 など

教育学コース

人間の可能性をとらえる 姿勢を確立

教育学の研究は、様々な視点から多彩に展開することが重要です。本コースでは、現場や地域でのフィールドワークに従事する演習、地球規模で教育のあり方を研究する科目などを設置。人間形成の現実と理念について深く学ぶことを通じて、人間の可能性をとらえる姿勢を養います。

【演習科目例】

教育原論 社会教育論 高等教育論 人権教育論 など

【ブリッジ科目例】

教育哲学 教育史学 社会教育・成人教育学-社会教育課題研究 教育社会学 教職論 教育福祉論 教育とジェンダー 教育学概論 生涯学習概論 障害と教育 教育法・教育行政 教育制度論 社会教育実習 など

日本語日本文学コース

日本文化の本質を 幅広く考察

日本語とその歴史を深く研究するとともに、個々の文学作品の特色とその歴史的意義を、古代から現代までを対象として、幅広く考察します。日本文化の本質を理解して、さらに日本から世界を認識し、世界の諸文化との豊かな共生につらなる新たな文化を創造することを目指します。

【演習科目例】

古典文学 日本語学 近代文学 現代文学 など

【ブリッジ科目例】

神話と伝説の世界 物語文学の世界 和歌文学の世界 近世小説と俳諧 近代の文学と文化 日本語の文化史 現代の日本語 日本語学概論 日本語史 日本文法 日本文学概論 日本文学史 日本の文学論 くずし字を学ぶ など

※科目例は、2024年度開講科目からの抜粋です(2025年度は休講の科目も含まれます)。

中国語中国文学コース

多様な場面で 日中を結ぶ人材を育成

ICTを活用し最新の教授法を取り入れた語学教育と、中国語を駆使する専門教育により、良質な中国語コミュニケーション能力を養成。さらに、歴史・文化に関する多様な科目を通して、中国の文化的風土や中国人のメンタリティを学び、「中国に明るい人材」を育てます。

【演習科目目録】

古代文学 近世文学 近現代文学 中国語文法 中国語音韻論 中国語教育法 など

【ブリッジ科目目録】

中国語学史 中国詩歌概論 中国近現代文学史 中国比較文化論 中国幻想怪異小説史 中国演劇文化史 など

英文学コース

英語による あらゆる表現活動を学ぶ

シェイクスピア研究をはじめとする早稲田大学の英文学の伝統を礎に、新たな時代を築こうという意気込みで満ちたコースです。体系的なカリキュラムにより、英語力の向上、そしてイングリッシュ・スタディーズの基本となる方法論、問題系、背景知識の修得を目指します。

【演習科目目録】

文学批評 モダニズム ルネサンス 英語ジャーナリズム読解 ロマン主義・イギリス19世紀 翻訳ワークショップ など

【ブリッジ科目目録】

イギリス文学史 アメリカ文学史 イングリッシュ・スタディーズへの招待 英語の歴史 英語学 イギリス小説の諸相 1960年代アメリカ カナダへの招待 イギリスの神話と伝説 Ideas in Context アメリカ詩への招待 アイルランドへの招待 シェイクスピアと現代 英米比較文化論 など

フランス語フランス文学コース

フランス文化を学び、 フランス語で発信する

中世から現代にいたる、フランス語圏の豊かな文化を研究するコースです。狭い意味での文学研究にとどまらず、映画・美術・思想等を含む多分野に広くアプローチ。豊富な語学カリキュラムと丁寧なケアによって、フランス語でも高度な自己表現ができる、発信型の人材の育成も目指しています。

【演習科目目録】

フランス語 フランス文学 フランス文化 フランス語学 など

【ブリッジ科目目録】

フランス文学史 フランス中世・ルネサンス文学 フランス小説 フランス詩 フランス思想 フランスの歴史と社会 フランス表象文化論 フランス語学概論 フランス語史 フランスの映画・映像論 フランス文学の現在 フランス比較文化論 など

ドイツ語ドイツ文学コース

多様なドイツ語圏の 文化を読み解く

ヨーロッパ統合の中核をなすドイツ、ハプスブルク帝国の伝統をくむオーストリア、独自の路線を歩むスイスといった多様なドイツ語圏の文化にアプローチします。さまざまな文化研究の手法を学ぶことにより、ドイツ語圏の文化全般を対象とした幅広い研究が可能になります。

【演習科目目録】

研究入門 ドイツの文学 ドイツの言語 ドイツの思想 ドイツ事情 など

【ブリッジ科目目録】

ドイツ文学概論 ドイツ言語文化論 ドイツ比較文化論 ドイツ語圏の文学 ドイツ語圏の思想 ドイツ語圏の文化 ウィーン文化論 など

ロシア語ロシア文学コース

ロシア文化を学びながら、 柔軟な思考を身につける

戦前から続くロシア文学専修の伝統を受け継ぎながら、日本におけるロシア語・ロシア文学研究の最前線を牽引するユニークなコースです。ロシア語はもちろん、全時代的にロシア文化を学べるカリキュラムを通して、その全貌と、新しい時代に即応したヴィジョンを追究し、多様化する現代世界を捉えるための、多角的でしなやかなまなざしを育てます。

【演習科目目録】

文学・芸術・社会 語学 フォークロア ロシア小説論 ロシア詩論 文学・文化理論 現代ロシアの芸術・文化 など

【ブリッジ科目目録】

ロシア語学 ロシア語史 ロシア中世文学 ロシア現代文学 日露比較文化 ロシア思想史 ロシア・アヴァンギャルド文化論 ソ連と世界の全体主義文化 ロシア文学と現代 ロシア文化理論と現代 ロシア芸術の現在 ロシア民衆文化論 など

演劇映像コース

2つの領域の 本質と多様性を学ぶ

演劇・映画を中心とする身体・映像に関わる文化表象について総合的に考察し、早稲田大学における坪内逍遙博士以来の演劇研究の伝統を発展的に継承することを目的としています。演劇、映像という2つの研究領域にまたがる複合的・横断的なテーマも学ぶことができます。

【演習科目目録】

日本演劇・民俗芸能 西洋演劇・テキスト研究 現代舞台芸術 映像とメディア 映画の表現 映画史 映像文化論 など

【ブリッジ科目目録】

日本演劇史 西洋演劇 映画史 映画理論 テキストと演出 日本の現代演劇 舞踊史 映画作家論 映画ジャンル論 大衆映画論 など

美術史コース

豊饒な美術作品の メッセージを解読

美術作品の成立、受容、伝統、革新、意義などをさまざまな角度から考察するのが美術史です。日本、東洋、西洋の各地域の美術を研究するための基礎と方法論を体得できる本コース。自身で選んだ研究テーマをさらに専門的に深められるよう、演習・講義科目が組まれています。

【演習科目例】

日本美術 東洋美術 西洋美術 など

【ブリッジ科目例】

日本美術史入門 仏教美術の歴史 絵画の見方 ルネサンス・バロック美術 西洋近代美術 現代アート入門 など

日本史コース

日本の国家・社会の 多様な歴史を読み解く

世界の動きの中で「日本」がたどった歴史を広い視野から考察します。日本列島に生きた人々の社会・生活・文化、諸外国との関係などについて、文字史料の他、民俗資料・物質資料を駆使し、古代～現代の歴史を多面的に研究することは、現代の社会問題を解く鍵ともなります。

【演習科目例】

古代 中世 近世 近現代 など

【ブリッジ科目例】

古文書学 歴史学 日本戦争史 日本環境史 日本史特論 日本史概論 日本民俗学 など

アジア史コース

東アジアの 歴史と文化を学ぶ

東アジアと日本の関係は、ますますその重要性を高めています。本コースでは、中国を中心に、朝鮮半島、さらに周辺地域も含めた地域の歴史と文化を専門的に学習。東アジアと日本との間で現実が起こっていることを正しく把握し、考える力を持った学生を育てます。

【演習科目例】

史料研究 中国古代史 朝鮮史 中国前近代史 アジア地域史 など

【ブリッジ科目例】

中国古代史 朝鮮前近代史 中国前近代史 東アジア近現代史 基礎漢文 アジア史概論 アジア史学発達史 フィールド歴史学(東アジア) 朝鮮近現代史 東南アジア史 中国近現代史 など

西洋史コース

幅広い西洋社会の 壮大な歴史を解く

歴史学とは、「どのようなプロセスを経て私たちは今いる場所に存在するのか」を研究する学問です。本コースのカリキュラムは、古代から近現代まで、西洋世界を網羅しています。人間と社会の本質に迫る、総合的な西洋史学の魅力が味わえます。

【演習科目例】

西洋中世史 西洋近現代史 など

【ブリッジ科目例】

西洋史概論 史学概論 西洋史学発達史 西洋史特論 西洋古代史 西洋中世史 西欧史 近現代ロシア史 西洋中世史 科学史 など

考古学コース

全世界規模で 人類の歴史を解明する

考古学は、文字記録ばかりでなく、人類が世界に残したさまざまな遺跡や遺構、遺物といった物質資料を対象にして研究する点が特色です。考古学コースでは、遺跡の調査技術、遺物や記録類の整理などの基礎技術を習得し、活用することで、人類の歴史の解明と理解を目指していきます。

【演習科目例】

日本考古学 外国考古学 比較考古学 北方考古学 東アジア考古学 実験考古学 地域と時代の考古学 など

【ブリッジ科目例】

考古学概論 日本考古学概説 世界の考古学 アジア考古学交流 環境と考古学 文化財の保存と活用 考古学方法論 野外考古学概論 理論考古学 文化財行政学 考古学と関連科学 原始古代の社会と宗教(アジア) 原始古代の社会と宗教(エジプト・マヤ) など

中東・イスラーム研究コース

中東やイスラームを 本格的に学ぶ

中東やイスラームについて、本格的に学びましょう。中東地域やイスラームを扱うことはもちろん、少しでもそれらに関連するテーマであれば、全世界の地域、すべての分野・領域を研究対象とすることができます。留学も推奨され、現地語の学習や現地旅行も支援します。

【演習科目例】

中東・イスラーム研究演習

【ブリッジ科目例】

イラン・トルコ研究 中東・イスラーム研究入門 中東・イスラームの宗教と思想 中東の移民とイスラームの拡大 アラブ文化研究 中東・イスラームの芸術と文学 中東・イスラームの社会研究 など

FACULTY

学びを支える
教員陣

文化構想学部 専任教員

氏名 専門分野 (2025年4月1日現在)

多元文化論系

伊川 健二	教授	中近世対外関係史
井上 文則	教授	古代ローマ史
小田島恒志	教授	現代イギリス小説、現代英米演劇、翻訳論
垣内 景子	教授	中国近世儒教(朱子学)、およびその日本への影響
河野貴美子	教授	和漢比較文学、上代・中古文学、日中説話文学
高屋 亜希	教授	東アジア現代文化研究
チャン・エドワード・テイ	教授	American Literature, Film Studies, Cultural Studies
中澤 達哉	教授	スロヴァキア史、東欧近現代史、ハプスブルク帝国史、ナショナリズム・スタディーズ
ホサイン・タニア	教授	外国語教育学(英語教育学)(社会言語学)(応用言語学)
由尾 瞳	教授	日本近代文学、モダニズム文学、ジェンダー研究、翻訳
吉原 浩人	教授	日中比較思想・東アジア文化交流史
渡辺 愛子	教授	現代イギリス地域研究
渡邊 義浩	教授	中国古代思想史
高井 詩穂	准教授	日本文学(古典芸能、古典文学)、ジェンダー、比較文学
ビタルク・パウ	准教授	日本近代文学、現代文学
リース・クリストファー	准教授	平安朝の漢詩文・和漢比較文学
武本宗一郎	講師	東アジア仏教思想

複合文化論系

加藤 大鶴	教授	日本語音声・音韻史、日本語アクセント史、漢語アクセント史
國弘 暁子	教授	宗教学人類学、ジェンダー研究
小沼 純一	教授	音・音楽文化論、音楽・文芸批評
小林 信之	教授	現代美学、感性論、芸術哲学
酒井 智宏	教授	意味論、語用論、言語哲学
坂上 桂子	教授	西洋近現代美術
陣野 英則	教授	平安文学、物語文学
高橋 利枝	教授	コミュニケーション論、メディア論、異文化コミュニケーション論
寺崎秀一郎	教授	中南米考古学
松前もゆる	教授	ジェンダー、国際労働移動、エスニシティ、バルカン地域研究
箕曲 在弘	教授	開発人類学、環境人類学、東南アジア地域研究
宮城 徳也	教授	西洋古典学、英文学
山田真茂留	教授	集団・組織論、理論社会学、宗教社会学
山吉 頌平	講師	日本中世文学、山岳信仰

表象・メディア論系

岡室美奈子	教授	現代演劇論、メディア論、モダニズムとオルティズム
坂内 太	教授	現代アイルランド文学・演劇・映画、フェミニズム、ポスト・コロニアリズム、パフォーマンス芸術、写真論
関 直子	教授	日本の近現代美術、女性美術家の活動、マティスと戦後美術
チェンドミニク	教授	サイバネティクス、デジタル・ウェルビーイング、ヒューマン・コンピュータ・インタラクション
長谷 正人	教授	メディア社会学、映像文化論
藤本 一勇	教授	フランス現代思想、情報メディア思想
細馬 宏通	教授	視覚文化における表象文化研究、発話と身体動作によるコミュニケーションの研究
石岡 良治	准教授	表象文化論、視覚文化論、ポピュラー文化研究、イメージ研究
菊地 浩平	准教授	人形文化論、表象文化論
中島那奈子	准教授	舞踊学、ダンスドラマツルギー
溝口 彰子	准教授	ジェンダー論、視覚文化研究、クィア理論、セクシュアリティ論、美術批評、映画論
和田 修	准教授	芸能身体論
川崎 佳哉	講師	映画研究、表象文化論

文芸・ジャーナリズム論系

岩川ありさ	教授	日本現代文学、フェミニズム、クィア批評、トラウマ研究
岡 真理	教授	現代アラブ文学、ポストコロナ批評、パレスチナ問題
小野 正嗣	教授	現代フランス語圏文学、世界文学論
菊池 有希	教授	比較詩学(詩を中心とする日本近現代文学の比較文学的研究)・ロマン主義研究
草野 慶子	教授	20世紀ロシア文学・文化、比較文学
小松史生子	教授	日本近現代文学、比較文学、民俗学、大衆文学、大衆文化、探偵小説、ミステリー
重松 清	教授	各国文学および文学論
十重田裕一	教授	日本近代文学
橋本 一徑	教授	表象文化論、イメージ論、身体論
堀江 敏幸	教授	創作(小説・批評・エッセイ)、日本現代文学、フランス現代文学
松永 美穂	教授	現代ドイツ文学・翻訳論
アスアヘアラマ・マヌエル	准教授	比較文学と翻訳論、世界文学論、世界におけるラテンアメリカ文学・日本文学の流通
市川 真人	准教授	日本の現代文学とメディア、およびその創作方法と批評
清水 智史	講師	谷崎潤一郎を中心とした近代文学の研究

現代人間論系

阿比留久美	教授	青年期教育、社会教育、ソーシャルワーク、地域文化活動、子ども・若者の「居場所」
石田 光規	教授	ネットワーク論、産業社会学、人間関係論
岡部 耕典	教授	障害者福祉論、社会福祉援助技術論、社会福祉学、福祉社会学
小塩 真司	教授	発達心理学、パーソナリティ心理学
久保田治助	教授	高齢者教育、教育福祉、臨床教育、社会教育、特別活動
清水 由紀	教授	発達心理学、文化心理学
御子柴善之	教授	ドイツ近現代哲学、倫理学
宮田 裕光	教授	身体心理学、ソマティック心理学、認知心理学、東洋的心理論
村松 聡	教授	近現代哲学、倫理学、応用倫理学、生命倫理学、人格論、身体論、他者論
森山 至貴	教授	セクシュアリティ論、クィア・スタディーズ
小村 優太	准教授	中世アラビア哲学、哲学史、宗教哲学、哲学対話
谷辺 哲史	講師	人工知能・ロボットの社会的受容、非生物に対する心の知覚、実験生命倫理学

社会構築論系

川尻 秋生	教授	日本古代史
金 敬黙	教授	平和研究、アジア研究、国際社会学、NGO研究、国際文化交流論、社会運動論
久保健一郎	教授	日本中世史
高野 孝子	教授	持続可能な開発(環境と開発)、地域社会学(農山村研究)、環境・野外教育
田畑 幸嗣	教授	東南アジア考古学(前近代東南アジアにおける産業史研究、比較都市論)、文化遺産論
樽本 英樹	教授	国際社会学、ヨーロッパ社会学、理論社会学
豊田 真穂	教授	ジェンダー史(アメリカ占領下の日本におけるジェンダー・社会政策の研究)
西城戸 誠	教授	環境社会学、地域社会学、社会運動研究、災害社会学
藤野 裕子	教授	日本近現代史、ジェンダー史、セクシュアリティ史
森 元孝	教授	理論社会学、社会学史
森田 貴子	教授	日本近現代史、日本経済史、土地制度史、近現代都市史
柳澤 明	教授	近世中国史(清朝史)
小松 寛	准教授	平和研究、戦後沖縄政治
清水 拓	講師	産業・労働社会学

外国語(両学部共通)

アスティゲタ・ベルナルド	教授	スペイン語圏思想史、スペイン語教育、オンライン教育、教材開発
ライアン・スティーブン	教授	言語学習心理学、英語学習者のモチベーション
山崎玲美奈	准教授	朝鮮語学、朝鮮語教育、日本語母語話者を対象とした朝鮮語教材開発

文学部の専任教員も文化構想学部の授業を行っています。文学部専任教員一覧もご参照ください。
文学部所属の教員も文化構想学部のゼミを担当することがあります。

教員の専門領域も多種多彩。人文科学領域と社会科学領域をカバーし、
学術研究の専門家から文芸創作の実践者までが揃う多士済々な顔ぶれです。
また、各教員が担当する講義科目はすべて「ブリッジ科目」として文化構想学部・文学部の垣根を越えて
履習できるので、他に類を見ない教員の多様性はそのまま学びの幅広さにつながっています。

教員紹介(学部 Web サイト)
<https://www.waseda.jp/flas/faculty/>



文学部 専任教員

氏名 専門分野 (2025年4月1日現在)

哲学コース

岩田 圭一	教授	古代ギリシア哲学
鹿島 徹	教授	西洋近現代哲学
西山 達也	教授	フランス現代哲学、ヨーロッパ思想交流史
伊藤 遼	准教授	論理学の哲学、初期分析哲学史、19世紀英国観念論

東洋哲学コース

森 由利亜	教授	道教思想史、中国民間信仰
師 茂樹	教授	東アジア仏教、比較思想・比較哲学、デジタル・ヒューマニティーズ
山部 能宜	教授	インド唯識思想、禅観

心理学コース

神前 裕	教授	学習心理学、学習理論、行動神経科学、行動薬理学、比較心理学
越川 房子	教授	臨床心理学、パーソナリティ心理学、音楽心理学
竹村 和久	教授	意思決定論、社会心理学、経済心理学
豊田 秀樹	教授	教育測定学、マーケティング・サイエンス
日野 泰志	教授	認知心理学、言語心理学
福川 康之	教授	健康と適応の心理学、老年心理学
藤野 京子	教授	犯罪心理学、臨床心理学、犯罪社会学
片平 建史	准教授	感性心理学、感性工学、生理心理学、感情心理学、音楽心理学、対人行動学
田中 雅史	准教授	神経科学、動物心理学、知覚心理学

社会学コース

岡本 智周	教授	教育社会学、共生社会学、歴史社会学、ナショナリズム研究、社会意識研究
草柳 千早	教授	社会的相互作用論、社会問題論、身体の社会学
崎崎 尚子	教授	ライフコース論、家族社会学
竹中 均	教授	比較社会学
田辺 俊介	教授	経験社会学、社会意識、社会調査方法論
土屋 淳二	教授	集合行動論、文化変動論
池田 祥英	准教授	フランス社会学説史、犯罪学
津田 好美	准教授	計量社会学、老年社会学、社会階層論

教育学コース

沖 清豪	教授	大学教育論、教育社会学
村田 晶子	教授	社会教育学、成人学習論、ジェンダーと教育
矢内 琴江	准教授	人権・ダイバーシティ教育
山辺恵理子	准教授	教育哲学、教師教育学

日本語日本文学コース

池澤 一郎	教授	日本近世文学、和漢比較文学
兼業 信行	教授	和歌文学
鈴木 貴宇	教授	日本近現代文学、日本モダニズム研究、日本社会論、日本近現代文化史、戦後日本文化論、大衆文化論、都市文化論
高松 寿夫	教授	日本古代文学、和歌史
坪井 秀人	教授	日本近代文学・文化史
鳥羽 耕史	教授	戦後文学、芸術運動、記録文学
森山 卓郎	教授	日本語文法論、語用論(コミュニケーション論)、応用言語学(国語教育・日本語教育)
和田 琢磨	教授	中世文学、軍記物語、太平記
澤崎 文	准教授	日本語の文字・表記史
小泉 咲	講師	平安朝物語文学、「源氏物語」

中国語中国文学コース

岡崎 由美	教授	中国近世文学(戯曲・小説)
紺野 達也	教授	中国古典文学、唐宋文学、琉球漢文学、和漢比較文学
楊 達	教授	中国語学
郭 清飛	講師	近現代中国文学、1980年代以来の出国作家・華人文学、小説研究、物語論

英文学コース

岡田俊之輔	教授	近現代英米文学
都甲 幸治	教授	現代アメリカ文学・文化
棚木 伸明	教授	アイルランド文学・文化
堀内 正規	教授	19世紀アメリカ文学
皆本 智美	教授	19世紀英文学、比較文学
山内功一郎	教授	アメリカ詩、現代詩
梅宮 悠	准教授	シェイクスピアを中心とする英国ルネサンス演劇
笹山 尚子	准教授	第二言語習得、英語教育、言語評価、教員養成

張 恒悦	教授	中国語教育、対照言語学、認知言語学、コーパス言語学、現代中国論
マッジャ フェデリカ	准教授	教育言語学、日本における外国語としてのイタリア語教育法

フランス語フランス文学コース

井上 櫻子	教授	18世紀フランス文学
小黒 昌文	教授	19世紀から20世紀初頭にかけてのフランス文学・文化、特にマルセル・ブルースト
鈴木 雅雄	教授	シュルレアリスム、20世紀フランス文学
デュストド オティール	教授	フランス文学、古典ギリシア・ラテン文学
瀬尾 周平	講師	20世紀フランス文学・思想

ドイツ語ドイツ文学コース

クラヴィッター アルネ	教授	近現代を中心にしたドイツ語文学、比較文学
武田 利勝	教授	ドイツ近代文学
山本 浩司	教授	現代ドイツ文学、オーストリア文学
戸嶋 匠	講師	20世紀前半のドイツ文学、精神分析批評

ロシア語ロシア文学コース

貝澤 哉	教授	ロシア文学
坂庭 淳史	教授	19世紀ロシア詩、思想、比較文学
三浦 清美	教授	中世ロシア文学、中世ロシア史、ロシア民衆文化研究
八木 君人	准教授	ロシア・フォルマリズム、ロシア・アヴァンギャルド

演劇映像コース

児玉 竜一	教授	近世演劇、近代芸能、日本演劇
小松 弘	教授	映画史
角井 誠	教授	映画研究、映画理論、フランス映画研究、表象文化論
藤井慎太郎	教授	西洋舞台芸術論、批評理論、文化芸術政策論
藤井 仁子	教授	日本映画、ポスト古典期アメリカ映画
入倉 友紀	講師	無声映画史、比較映画史、女性映画

美術史コース

川瀬 由照	教授	日本彫刻史、東洋美術史、日本美術史、博物館学、文化財学
児嶋 由枝	教授	対抗宗教改革期・バロック期の美術、イタリアを中心とした中世ルネサンス美術
成澤 勝嗣	教授	近世日本絵画史
肥田 路美	教授	仏教美術史、中国美術史
益田 朋幸	教授	西洋美術史、ビザンティン美術史
山本 聡美	教授	日本美術史(古代・中世絵画史、絵巻、仏教絵画)

日本史コース

田中 史生	教授	日本古代史、古代東アジアの国際交流史
谷口 眞子	教授	日本近世史(武家政治、身分制社会、近世法)
鶴見 太郎	教授	日本近現代史
真辺 将之	教授	日本近現代史(特に明治時代の思想・政治・教育)
下村周太郎	准教授	日本中世史、特に中世国家論、鎌倉幕府論、政治史、戦争史、環境史
荒船俊太郎	講師	日本近現代史、史料論、アーカイブズ学

アジア史コース

飯山 知保	教授	華北社会史
柿沼 陽平	教授	中国古代・中国中世史、とりわけ経済史、貨幣史、書籍史
植田喜兵成智	講師	朝鮮古代史、新羅・唐関係史、東アジア史、石刻資料

西洋史コース

小原 淳	教授	ドイツ近現代史
甚野 尚志	教授	ヨーロッパ中世史
松園 伸	教授	英国政治史
貝原 伴寛	講師	フランス近世史

考古学コース

城倉 正祥	教授	東アジア考古学(古墳・寺院・都城)
長崎 潤一	教授	北海道考古学、北東アジア旧石器考古学
中門 亮太	准教授	縄文土器、縄文時代、民族考古学、ニューギニア民族誌、文化財行政
山崎理愛理	講師	エジプト学(特に考古資料とテキスト・図像の研究)、王朝時代研究、葬送儀礼研究

中東・イスラーム研究コース

五十嵐大介	教授	中世アラブ・イスラーム史
大稔 哲也	教授	中東社会史、エジプト史、ムスリム社会史、イスラーム研究
佐藤 尚平	教授	中東地域研究、イギリス帝国史、国際関係史

文化構想学部の専任教員も文学部の授業を行っています。文化構想学部専任教員一覧もご参照ください。
文化構想学部の教員も文学部の演習(卒論)を担当することがあります。

文化構想学部

趣味の音楽と歴史を融合させた

横断的な学びを深めていきたい

子どもの頃からクラシック音楽が好きで、オーケストラに関するドキュメンタリーを見たり作曲家の伝記を読んだりするなかで、音楽と歴史との結び付きに興味を持つようになりました。大学ではこれらの分野を融合させて学びを深めたいという思いがあり、学問領域の枠を超えて横断的に学べる文化構想学部を選びました。入学後は、歴史や音楽に関連する講義だけでなく、心理学や数学、宇宙を自然科学・社会科学と結び付けて考える科目など、さまざまな分野の講義を受講しました。2年次からは多元文化論系に進級します。ナチ・ドイツの時代のクラシック音楽と政治・社会の関係について探究を進めていく予定です。自分の興味関心をとことん深められる文化構想学部では、学生同士がお互いの自由を大切にする雰囲気があり、皆がそれぞれ自分らしくいられることが魅力だと感じます。今後もゼミや研究で専門的に学ぶ分野のみならず、幅広い分野の科目を履修して知識の幅を広げ、深めていきたいと考えています。

1年 **中村 奏斗** さん

名古屋市立菊里高等学校 出身



戸山キャンパス お気に入りの場所

戸山キャンパス36号館2階のラウンジは広々として快適。スペースが広く、勉強をしたりお昼を食べたり、Wi-Fiもあるためオンデマンドやオンラインの講義を受けるのにも便利でお気に入りの場所です。

🕒 **Timetable** [1年秋学期] (2024年度開講科目)

	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1 時間				必修 English for General Communication Ⅱ		
2 時間		1年ドイツ語 (Step2) イ		健康スポーツ 概論03		
3 時間	1年ドイツ語 (Step2) ニ			自己意識の心理学		
4 時間	ドイツ語で表現する2 (初歩の会話)		1年ドイツ語 (Step2) ロ			
5 時間				西洋史1A	宇宙を考える-自然現象、社会科学を結びつける宇宙への視点-	
6 時間						

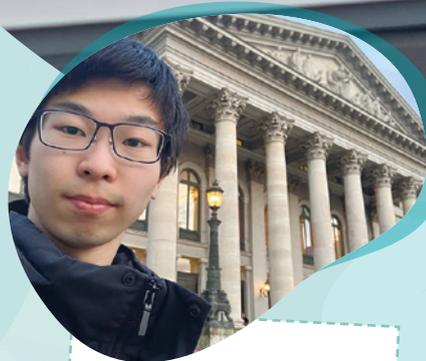
※上記の授業に加え、フルオンデマンド授業で「1年ドイツ語(Step2)ハ」「ギリシャ・ローマの思想と文化」「数学基礎プラスα(金利編)03」を履修

とある木曜日

7:00 起床・朝食・家事	13:10 3限目の授業	大学生協アルバイトの資料作成・準備
8:00 登校	15:05 学内アルバイト	21:00
8:50 1限目の授業	17:00 5限目の授業	授業の予習・復習
10:40 昼食後、サークル活動	19:00 帰宅・夕食	22:00
		24:00 就寝

サークル活動も 成長の場に

所属するピアノサークルでは月一回の演奏会があり、人前に立つことにも少しずつ慣れてきました。2年次からは運営にも関わり、仲間と協力しながらさまざまなことに挑戦していきたいです。



ドイツ・ミュンヘンへ 短期留学

3月には、ミュンヘンへ1か月間留学し、ドイツ語を学びながら音楽や美術に触れる日々を過ごしました。毎日のように鑑賞したオペラや美しい街並みなど、文化体験を通じて大きく成長できたと感じています。

文学部

入学当初は日本史を専攻したいと考えていました。1年次に受講した講義をきっかけに、日本文学こそ、過去から今に至る「多くの人間の営み」の実態を映しているのではないかと思うようになり、日本語日本文学コースに進むことを選択。進級後は、関心のある古典文学を中心に、近現代文学や日本語学も含めて、制限を設けずに学ぶことに努めました。卒業論文では、高校生の頃からの『源氏物語』への関心と、大学で抱いた日本漢詩への関心を両立できるように、『源氏物語』を漢詩にした江戸時代の作品を扱いました。題材の漢詩を読み解くことに加え、当時漢詩を詠んだ人と同じくらい深く『源氏物語』を読み込む必要があります。多くの時間と熱量をかけて取り組みました。この4年間で、自身の関心を自覚し、それを深められる場所に能動的に入っていくことや、そうした場所を自ら創り出すことができるようになったと感じます。物事を多角的に捉える力や主体的に行動する力を、社会人としても発揮していきたいと思います。

両方の関心に沿って深く探究

「源氏物語」と「日本漢詩」の

日本語日本文学コース 4年 近藤 碧さん

埼玉県立浦和第一女子高等学校 出身



コース合宿で 卒業論文を中間発表

4年次の夏に軽井沢であった日本語日本文学コースの合宿では、卒業論文の中間発表を行いました。指導教授以外の先生方にもご指摘をいただく貴重な機会に。文学者の別荘やゆかりの品も見学しました。



伝統文化にかかわる サークルで活動

華道、茶道、書道の3つのサークルで活動しました。華道サークルでは4年間の集大成として、最後の早稲田祭で大作に挑戦。夏休みも使って何度も練習を重ね、当日は4時間かけて仕上げました。



視野を広げられた イギリス短期留学

3年次に進級前の春休みに、大学のプログラムで英国オックスフォード大学に19日間留学。留学先での経験を通して、日本の伝統文化が海外でどのように捉えられているのかに関心を抱くようになりました。



🕒 Timetable [3年春学期] (2023年度開講科目)

	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1 時限			日本語日本文学研究4 (近世文学)			
2 時限	原始古代の社会と宗教 (エジプト・マヤ)	日本語日本文学研究5 (近代文学)		西洋近代美術		
3 時限				日本語日本文学演習7A (古典文学)		
4 時限	Listening and Reading (Critical thinking for Advanced learners)			Listening and Reading (Critical thinking for Advanced learners)		
5 時限	日本演劇史1					
6 時限						

※上記の授業に加え、フルオンデマンド授業で「くすし学を学ぶ」[鎌倉・室町の文学]「日本語史1」「ウィーン文化論」を履修

📅 とある水曜日

7:30 起床・朝食・支度	13:10 オンデマンド授業を図書館で受講	17:00 サークル活動(華道)
10:30 登校		21:00 帰宅・夕食
10:40 2限目の授業	15:05 就活イベント参加(オンライン)	23:00 就寝
12:20 昼食		

学びの軸を
決めることが
できる

入学後

入学前
その時の興味に応じて
広く学べる

入学前

「文学」について学ぶのかな…

入学後

一見学問として
扱えなさそうなテーマの
講義がある

入学後

社会で起きている
あらゆる事象も扱っている

入学前

社会の中のあらゆる
文化作品を扱っている

入学前後のイメージ

入学前

自分の専門分野
以外は学べない

入学前

イマイチどんな学部か
わからなかった

入学後

どんな学部よりも自由で、
魅力的なことが多い

入学後

入学前
文芸・哲学の
堅いイメージ

社会科学にも及ぶ
広い学問領域

無限に広がる 学問の組み合わせ

入学後



在学生の本音を
集めました。

在学生に

なぜ?の追求 意外と複雑

正解がないものについて
考え続けられる

枠を作ってもいいし、
壊してもいい

新しい言語に
たくさん
触れられる

学部ならではの学びの面白さは?

常識を疑う、 という学び方

日常のこんなところにも
深い世界が広がっていたのか!

個性豊かな授業と無限のテーマ

深いようで浅いようで深い

第一線で活躍する教授の
授業を受けられる

興味・関心をとことん
突きつめられる

サブカルがサブじゃない

多様な価値観にふれられるところ (文)

学問に対して深い関心、志がある人と出会える (文)

ブリッジ科目を活用し、幅広い分野を学べる (文)

個性を爆発させていい場所 (文)

▶ 学部の魅力や感じることは？

戸山図書館など勉強に集中できる環境がある (文)

晴れた日の戸山の丘 (文)

まわりの出来事を学術的視点で観察できる (文)

どんなときも学問になる (文)

開放感がある明るいキャンパス (文)

人それぞれの違いを個性として楽しめる雰囲気 (文)

留学や講演会など新しい機会であふれている (文)

きいてみた!



教員 教えるのがとにかくうまい (文)

自分の好きなことに全力 (文)

教員 様々な興味深い経験をしている (文)

教員 特定の分野を窮めたエキスパートばかり (文)

学生 興味の範囲が広く批判的に物事を捉えられる (文)

▶ どんな魅力的な学生・教員がいる？

教員 学生と一緒に考え学ぶ (文)

学生 知的でユニーク (文)

学生 クセが強い (文)

学生 自分の知らない分野についても詳しくて面白い (文)

教員 学生のやりたいことをサポートしてくれる (文)

学生 自らの考えを的確に言語化できる (文)

教員 専門を輝くように語る (文)

TOYAMA CAMPUS

学生たちに“文キャン”の愛称で親しまれている戸山キャンパス。

四季折々の風情が愉しめる「早稲田アリーナ」の屋上緑化庭園「戸山の丘」は、学生の憩いの場になっています。



B 学生を出迎える メタセコイア & スロープ

正門から続くメタセコイア並木のスロープは、戸山キャンパスが完成してから、多くの学生に愛されてきました。戸山の丘を望む長いスロープを渡りながら、美しい四季を感じることができます。



歴史を学ぶ ◆ 銘板さんぽ

戸山キャンパスには歴史ある陶彫などが多数設置されています

- ★1 ~ ★4 辻晉堂[※]のレリーフ
- ★5 辻晉堂[※]の彫刻
- ★6 現校舎竣工時から立つ椎
- ★7 1968年植樹のメタセコイアの並木

※抽象的な陶彫で知られる彫刻家(1910-1981)



A 戸山のシンボル 早稲田アリーナ

入学式や卒業式など各種式典の開催にも利用される多目的スポーツアリーナ。グループワークなどができる学習施設の他、緑豊かな丘状庭園「戸山の丘」、早稲田スポーツの魅力伝える「早稲田スポーツミュージアム」やカフェなども併設しています。



C 学び舎の中核 33号館高層棟

教室や教員の研究室などがある16階建ての建物。1階は、歴史を感じることができるまるでミュージアムのようなスペース。入口のタイルにも長い歴史と学生の想いがつまっています。



D 学生が集う 戸山カフェテリア

陽光が差し込む開放的なカフェテリア。学食としてはもちろん、学生が集うラウンジとしても利用できます。自習やミーティングなどのスペースとして、いつも多くの学生で賑わっています。



E 戸山名物のベーカリー ミルクホール

店内で焼き上げる焼きたてのパンが楽しめます。またパンだけでなく、さまざまな味のタピオカドリンクなどもあり、学生に大人気のベーカリーです。店内にはイートインスペースも用意されています。

TOYAMA campus

キャンパスツアーサイト
<https://www.waseda.jp/top/about/work/campus-tours>



至 西早稲田キャンパス/
東京メトロ副都心線西早稲田駅

ACCESS

JR山手線・西武新宿線から

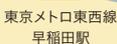
- ・「高田馬場」駅から徒歩20分
- ・「高田馬場」駅から都バス「早大正門行」で「馬場下町」下車2分

東京メトロ東西線から

- ・「早稲田」駅から徒歩3分

東京メトロ副都心線から

- ・「西早稲田」駅から徒歩12分



東京メトロ東西線
早稲田駅

早稲田
キャンパス
まで徒歩3分

大隈記念講堂

大隈重信銅像

WASEDA campus

坪内博士
記念演劇博物館



F 早稲田文化の 課外活動拠点 学生会館

大学公認サークルの部室や活動スペースが集まる学生会館。音楽練習室やスポーツジムなどの便利な施設や、キャリアセンターや学生生活課も有するなど、キャンパスライフに欠かせない課外活動の拠点となっています。



H 教科書や生活用品が揃う 早大生協戸山店

勉強に必要な不可欠な教科書や文房具をはじめ、専門書や文庫・新書、雑誌のほか、旅行やレンタカーの手配など大学生活を彩るサービスを提供しているショップです。早稲田グッズも販売しています。



G 文学学院の 学習と研究を支える 戸山図書館

約49万冊の蔵書を所蔵し、通常22時まで開館。日本語の入門書や専門書から、外国語図書、学術雑誌まで、人文学・社会科学の専門資料を豊富に備え、文学学院の学びと研究を幅広く支えています。



I 電源・Wi-Fi完備 学生ラウンジ

賑わいが絶えない36号館の2階にある学生ラウンジ。電源付きの一人席もあり、パソコンを持ち込んで作業もできるので、学生の自習スペースや待ち合わせ場所として利用されています。

SUPPORT & CAREER

留学 > 自分のレベルや目的に合わせて選べる

語学力や目的、期間などに応じて、学生それぞれの希望に応える多彩なプログラムを展開。留学先で修得した単位の認定制度もあるので、留学を経ても4年間で卒業が可能です。*

※留学期間や留学先での学習内容、進級した論系・コースによっては4年間で卒業できない場合もあります。

2024年度は2学部合計146名が29ヶ国へ留学しました。

文化構想学部 **92名** 文学部 **54名**

※留学実績は短期留学を除いた数字です。

（エリア別留学先）
 ・ヨーロッパ 61名 ・アジア 32名
 ・北米 44名 ・オセアニア 9名

学生留学アドバイザー

学生留学アドバイザーとは、留学センター所属のボランティア団体で、留学センターが提供する中長期留学プログラムに参加した学生によって構成されています。留学に関連した様々なイベントの企画・開催や留学情報誌の発行などを通じて海外留学に挑戦する早大生を応援しています！

学生留学
アドバイザー
について▶



[Message from Students]

フランス語を通して言語学を学びたいと思い留学を決めました。リヨン第3大学は言語学の授業が豊富で音声学や統語論など専門的な知識を身につけることができます。日本語学科があるため日本語を学ぶ現地学生との交流も盛んで、一緒に勉強する中でお互いの文化についての議論や言語を教え合う経験ができました。穏やかな気候でこじんまりとしたリヨンは学生として生活するのに最適であり、パリへのアクセスもよいため時折足を運んで美術館で様々な芸術作品を見たことは刺激的でした。フランス人や他の留学生との交流を経て、さらに言語への興味が高まったので今後の学習の幅が広がることは間違いありません。



蘇武 祐吾 さん
Sobu Yugo



文学部 フランス語フランス文学コース 3年
埼玉県立浦和高等学校出身
フランス/ジャン・ムーラン・リヨン第3大学へ留学

免許・資格 > 未来のキャリアをしっかりとサポート

教員免許や資格の取得から、就職や進学などの進路のサポートまで、学生の未来を教職員がしっかりとサポートします。

文化構想学部・文学部ともに以下に挙げたさまざまな免許や資格を取得することができます。

※2025年4月現在の情報です。変更になる場合があります。

教育職員免許状 (すべて1種免許状)	[文化構想学部] 英語(中・高)/国語(中・高)/社会(中)/地理歴史(高)/公民(高) [文学部] 英語(中・高)/国語(中・高)/社会(中)/地理歴史(高)/公民(高)/フランス語(中・高)/ドイツ語(中・高)/ロシア語(中・高)/中国語(中・高) ※フランス語・ドイツ語・ロシア語・中国語の免許状取得は、それぞれ対応するコースに所属している場合に限ります。	学校図書館司書教諭	両学部で取得可能 ※同時に教員免許状の取得も必要です。
博物館学芸員	両学部で取得可能	社会教育主事	両学部で取得可能 ※公務員が特定の業務に任用される際に必要となる資格です。
図書館司書	両学部で取得可能	社会福祉主事	両学部で取得可能 ※公務員が特定の業務に任用される際に必要となる資格です。
		公認心理師	文学部の心理学コースでは、公認心理師の国家試験受験資格のうち学部での要件を満たすことができます。 (文化構想学部、文学部の他のコースでも要件を満たせる可能性があります。また学部での単位修得だけでは国家試験の受験資格を取得することはできません。)

教職課程を履修している学生の時間割(参考) [教員免許状取得予定科目: 国語]

□ : 教育学部開講の教職課程科目 □ : 文化構想学部もしくは文学部開講科目でかつ教職課程科目

文化構想学部 1年(春学期)

	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1 時限			教職論		基礎外国語	
2 時限	教育基礎総論1 (中・高)	基礎外国語	必修英語			
3 時限	基礎外国語		講義		必修 基礎演習	
4 時限	教育心理学 (中・高)	講義	基礎外国語			
5 時限	生徒理解と教育 相談(中・高)					
6 時限			教育制度総論 (中・高)			

*その他 入門講義(2科目・2単位)(フルオンデマンド)

(秋学期)

	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1 時限				必修英語	基礎外国語	
2 時限		基礎外国語				
3 時限	基礎外国語	講義		道徳教育論 (中・高)		
4 時限	講義	生徒指導・進路 指導論(中・高)	基礎外国語	法學原論		
5 時限			書道(書写)		特別活動論 (中・高)	
6 時限						

*その他 入門講義(1単位)、学術的文章の作成(1単位)、講義科目(2単位)(フルオンデマンド)

文学部 1年(春学期)

	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1 時限					基礎外国語	
2 時限	教育基礎総論1 (中・高)	基礎外国語	体育科目	必修英語	体育科目	
3 時限		教育心理学 (中・高)	基礎外国語	法學原論	必修 基礎演習	
4 時限	基礎外国語		講義	教職概論 (中・高)		
5 時限	生徒理解と教育 相談(中・高)			漢文講読1	書道(書写)	
6 時限						

*その他 入門講義(2科目・2単位)(フルオンデマンド)

(秋学期)

	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1 時限			必修英語		基礎外国語	
2 時限		基礎外国語			講義	
3 時限	講義		基礎外国語			
4 時限	基礎外国語		講義		教育制度総論 (中・高)	
5 時限						
6 時限				特別活動論 (中・高)		

*その他 入門講義(1単位)、学術的文章の作成(1単位)

[Message from Students]

教員を将来の選択肢の1つに考えていたため、社会・地理歴史・公民科の教員免許取得を目指して教職課程を履修しました。教職科目を通して、教科の専門的な知識だけではなく、一般教養や主体・協調性も学ぶことができました。また、教職の授業で大切な仲間と出会うこともできました。教職課程の科目の分、履修する授業数は多くなりましたが、アルバイトやインターン、サークル・遊びとの両立も十分に可能でした。教育実習を通して学校現場の面白さに興味をもったため、春から私立の中高一貫校で教員として働くことに決めました。大学での学びを生かし、教員として子どもたちを支えていきたいと思っています。



大熊 初音 さん
Okuma Hatsune

文学部 教育学コース 4年
東京都・女子学院高等学校出身

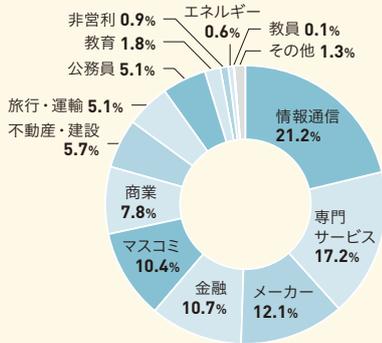
卒業後の進路

文化構想学部・文学部ともに卒業生の約8割が企業または官公庁に就職しています。
就職先は多岐にわたり、それぞれの分野の第一線で活躍する卒業生を多数輩出しています。

※2025年4月9日現在、キャリアセンター調べ

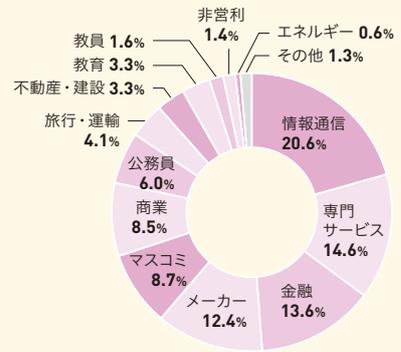
文化構想学部	
就職	: 703人
進学	: 59人
資格試験受験	: 9人
その他	: 59人

(2024年度卒業生)



文学部	
就職	: 485人
進学	: 70人
資格試験受験	: 13人
その他	: 46人

(2024年度卒業生)



[Message from Alumni]



文化構想学部 就職

資生堂インタラクティブ
ビューティー株式会社

宇田 萌人 さん

Uda Moeto

文化構想学部
文芸・ジャーナリズム論系 2019年卒業
東京都・青陵高等学校出身

言葉を超えて本質を捉える、「翻訳」という能力

英語による文芸翻訳を専攻し、未翻訳の本を探して自ら訳す実践を重ねていました。翻訳は単なる言葉の置き換えではなく、作品の本質を理解し、異なる文化を橋渡しする行為でもあります。この経験は、現在の化粧品会社での仕事にも生きています。仕事ではデジタル領域のクリエイティブ制作を担当していますが、業種や組織など、多様な背景を持つ人々の言葉の奥にある意図を読み解き、プロジェクトを推進することが求められます。言葉を超えて本質を捉える「翻訳」というものは、広く活用できる能力だと感じています。



文学部 就職

株式会社ベクトル

大幡 拓登 さん

Ohata Takuto

文学部 美術史コース 2025年卒業
東京都・暁星高等学校出身

コミュニケーションを媒介する客観的視点

在学中は古今東西幅広く美術の歴史を学び、4年次にはモダンチェアのデザインに関する卒業論文を執筆しました。一見すると別々の事象に本質的な部分での相似点を見出し、体系的に結びつけていく考察は面白く、知的好奇心が満たされる時間でした。就職活動では、コミュニケーション業界を幅広く志望しました。日々の講義やレポート・論文執筆において、文章力や自分自身を客観視する力を身につけることができたことは、志望企業の選考を突破するためにも大いに生かされました。



大学院進学 就職

国立国会図書館

工道 あつみ さん

Kudo Atsumi

文化構想学部
文芸・ジャーナリズム論系 2021年卒業
文学研究科 日本語日本文学コース 2023年修了
東京都・東京学芸大学附属高等学校出身

普遍的な情報整理と読み書きの力

日本近現代文学専攻で、大江健三郎『万延元年のフットボール』の本文異同、ケア論的観点を元に論文を書きました。PC、研究対象が収録された全集、先行研究や自作の資料など、大量の荷物を持ち歩く日々でした。教授陣も院生も層が厚く、刺激の多い恵まれた環境だったと思います。現在は国立国会図書館に勤務しています。専門科目試験の科目に文学分野があることが、応募したきっかけの一つでした。大量の文献を整理する力、たくさんの文章を読み、たくさん書いた経験は、資料整備や業務文書作成に非常に役に立っていると感じています。

大学院進学

大学院進学について▶



● 日本最大規模の人文科学系大学院

大学院文学研究科は、哲学・文学・史学など、人文学のあらゆる知を探究できる23のコースを擁する日本最大規模の大学院です。2025年度からは修士課程に新たに社会構築論コースを開設。学問領域の新規開拓にも積極的に取り組んでいます。

● 文化構想学部、文学部からの推薦入学試験制度

大学院文学研究科の多くのコースでは本大学全学部からの推薦入学試験制度を設けており、学部からのスムーズな接続を実現しています。

ADMISSIONS

2026年度入学試験情報

一般選抜

文化構想学部

文学部

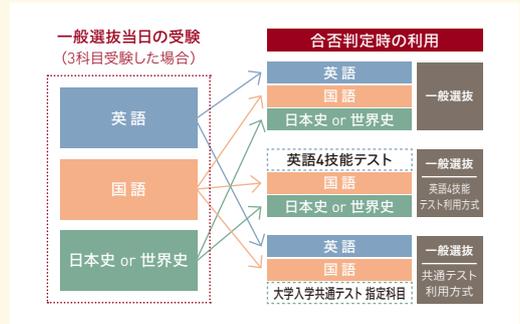
文化構想学部、文学部ともに以下の3方式の一般選抜を実施します。いずれも併願可能です。

		一般選抜	一般選抜 <small>英語4技能テスト利用方式</small>	一般選抜 <small>共通テスト利用方式</small>
外国語	配点75点 90分	英語	英語4技能テスト (出願時提出)	英語
国語	配点75点 90分	国語	国語	国語
地歴	配点50点 60分	日本史 or 世界史	日本史 or 世界史	大学入学共通テスト (地歴・公民、数学、理科、情報)のうち1科目
募集人員	文化構想学部	330名	110名	35名
	文学部	260名	85名	25名
入学検定料		35,000円	30,000円	30,000円

※ で示した科目は学部独自の試験であり、早稲田大学での受験が必要です。 ※上記3方式の日程や科目の詳細は裏表紙をご参照ください。

併願

- 各学部において、複数の入試方式に出願可能です。
- 複数の入試方式に出願した場合も、早稲田大学での受験は1学部につき1日となります。
文化構想学部：2026年2月12日 / 文学部：2026年2月17日
- 複数の入試方式に併願した場合、一度の受験結果を複数回利用して入試方式毎に合否判定を行います(右図参照)。
- 文化構想学部、文学部では、学部ごとに併願による入学検定料減額制度があります。上表の3つの入試方式のうち2つに同一学部内で併願した場合：55,000円(通常は60,000円または65,000円)、3つすべてに同一学部内で併願した場合：75,000円(通常は95,000円)



一般選抜(英語4技能テスト利用方式)

以下の基準点以上を取得している方が本方式に出願することができます。国語と地歴の2教科の合計点によって合否を判定します。



【英語4技能テスト基準点(2026年度入試)】

技能	TEAP		IELTS (Academic)	実用英語 技能検定 (英検)	TOEFL iBT	ケンブリッジ 英語検定	GTEC CBT
	-	CBT					
総点	280	470	5.5	2200	60	160	1100
Reading	65	110	5	500	14	150	250
Listening	65	110	5	500	14	150	250
Writing	65	110	5	500	14	150	250
Speaking	65	110	5	500	14	150	250

※英語4技能テスト基準点は、毎年度見直しを行います。

- ※2024年2月1日以降に受験した試験結果を有効とします。ただし、実用英語技能検定は、2023年度第3回以降に受験したものを有効とします(スコア証明書に記載の受験年度・受験回を基準とします)。
- ※実用英語技能検定は、従来型、S-CBT、S-Interviewが利用可能です。また、CSEスコアの総点および各技能点を利用し、受験した級およびその合否は問いません。
- ※TOEFL iBTの「MyBestスコア」「TOEFL Essentials」「Home Edition」「Paper Edition」は利用できません。
- ※IELTSは、Computer-delivered IELTSも利用可能です。「IELTS Online」「IELTS One Skill Retake」は利用できません。
- ※ケンブリッジ英語検定は、B2 First / C1 Advanced / C2 Proficiencyを対象とし、for schoolsも含まれます。
- ※スコアに応じた加点等の措置はありません。

学費 2026年度入学者初年度

	入学金	初年度授業料	学生読書室 図書費(予定)	学生健康増進 互助会費(予定)	合計額
文化構想学部 文学部	200,000円	1,091,000円	1,000円	3,000円	1,295,000円

- ※2026年度入学者の学費は入学センターWebサイト(<https://www.waseda.jp/inst/admission/>)でも掲載しています。
- ※第2年度以降、進級する論系・コースが設定する実験実習料を徴収します(論系・コースによって徴収の有無、金額が異なります)。
- ※特定の科目を履修する場合、別途実習費等が必要となる場合があります。

英語による学位取得プログラム JCulP (日本学生)

文化構想学部 ▶ P.14

募集人員	15名
入学検定料	日本国内居住者 35,000円
	日本国外居住者 10,000円

- 日本学生：主に日本の教育制度の高校出身者(定員15名)
- 海外学生：主に日本以外の教育制度の高校出身者(定員15名)

JCulPは独自の入試でのみ入学することができます。海外学生の入学試験は英語4技能テストの基準点や出願書類・スケジュールが日本学生とは異なります。詳細は9月下旬までに文化構想学部Webサイトに公開される入試要項をご確認ください。

入試日程



英語4技能テスト基準点 (2026年度入試)

英語4技能テスト基準点は右の通りとし、基準点以上のスコアを提出できることを出願資格の1つとします。基準点未満のスコアを提出した場合、出願を受理しません。

※英語4技能テスト基準点は、毎年度見直しを行います。

※英語4技能テストの有効期限・提出可能なテスト種別などの詳細については、入試要項をご確認ください。

TEAP	TEAP CBT	IELTS (Academic)	実用英語技能検定 (英検)
309	600	5.5	2300
TOEFL iBT		ケンブリッジ英語検定	GTEC CBT
72		160	1190

主な出願書類

※出願に必要なその他の書類は入試要項をご確認ください。

● 志望理由書

与えられるテーマについて800words程度のエッセイを英語で作成してください。

● Academic Honors

学業において表彰をされた場合や、学芸系・文芸系等の活動について記載してください。少なくとも1つは記載することを強く推奨します。

● Personal and Volunteer Activities

学業以外での課外活動(スポーツおよびボランティアなどの活動を含む)について記載してください。少なくとも1つは記載することを強く推奨します。

地域探究・貢献入学試験

文化構想学部

文学部

募集人員	両学部とも若干名
入学検定料	第1次選考 10,000円
	第2次選考 25,000円

地域が抱える課題の解決や地域の発展に向けて、グローバルな視野を持ちつつ、自ら主体的に学び(「地域探究」)、社会的・文化的・学術的に貢献(「地域貢献」)する意欲のある学生を求めます。出願資格や入試の詳細については、入学センターWebサイトににてご確認ください。

外国学生のための学部入学試験

文化構想学部

文学部

募集人員	両学部とも20名
入学検定料	30,000円

出願資格や入試の詳細については、入学センターWebサイトににてご確認ください。

奨学金 2025年度の例

早稲田大学独自の学内奨学金をはじめ、日本学生支援機構や地方公共団体・民間団体の学外奨学金など、多種多様な制度があります。

奨学金について ▶



学内奨学金	支給額(年額)	採用予定人数
めざせ! 都の西北奨学金	450,000円 ^{※1}	1,200名 ^{※2}
大隈記念奨学金	400,000円	104名以内 ^{※2}
校友会給付奨学金	400,000円	35名 ^{※2}
小野梓記念奨学金(在学生採用型)	400,000円	200名 ^{※2}
文学学術院学部奨学金	200,000円	20名 ^{※3}

※1 国による高等教育の修学支援新制度と併給の場合は給付額が調整されます。詳細は奨学金課ウェブサイトにてご確認ください。

※2 全学での採用予定数

※3 文化構想学部、文学部合わせての人数

ADMISSIONS 2026年度 一般選抜

入学手続締切日

第1次：登録料(入学金相当額)振込締切日
第2次：学費・諸会費(春学期分)振込締切日

学部・募集人員	教科(時間/配点)	科目	試験日	合格発表日	手続締切日
文化構想学部 文学部	各方式の併願ができます 3方式とも同一試験問題で実施するため、複数の方式を併願した場合も大学での試験は1回です				
文化構想学部 文化構想学科 330名	外国語(90分/75点)	英語	2月12日(木)	2月20日(金)	第1次/ 3月4日(水) 第2次/ 3月24日(火)
	国語(90分/75点)	国語			
文学部 文学科 260名	地歴(60分/50点)	次のうちから1科目を選択 ①世界史 ②日本史	2月17日(火)	2月26日(木)	第1次/ 3月5日(木) 第2次/ 3月24日(火)
文化構想学部 文化構想学科 110名	英語4技能テスト 利用方式	国語(90分/75点) 地歴(60分/50点)	2月12日(木)	2月20日(金)	第1次/ 3月4日(水) 第2次/ 3月24日(火)
文学部 文学科 85名	英語4技能テスト [出願時に提出]	次のうちから1科目を選択 ①世界史 ②日本史	2月17日(火)	2月26日(木)	第1次/ 3月5日(木) 第2次/ 3月24日(火)
※TEAP, TEAP CBT, IELTS(Academic)、実用英語技能検定(英検)、TOEFL iBT、ケンブリッジ英語検定、GTEC CBTのいずれかにおいてP.29に記載の基準点以上の方について、国語と地歴2教科の合計点により判定します。					
文化構想学部 文化構想学科 35名	共通テスト利用方式	選択科目：次のうちから1科目を選択/配点50点 ※地歴・公民/理科は第1解答科目を合否判定に利用します(第2解答科目は利用できません)。 地歴・公民：①『地理総合, 地理探究』②『公共, 倫理』③『公共, 政治・経済』 数学：①『数学I, 数学A』②『数学II, 数学B, 数学C』 理科：①『物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎』(このうち2つを選択解答) ②『物理』③『化学』④『生物』⑤『地学』 情報：『情報I』 ※それぞれ配点100点を50点に換算します。 ※上記指定科目の範囲内で2科目以上受験している場合は、最高得点の科目の成績を大学側で自動的に抽出し、合否判定に利用します。 ※『歴史総合, 世界史探究』『歴史総合, 日本史探究』等は試験科目に含まれていませんので、注意してください。	大学入学共通テストおよび2月12日(木)	2月20日(金)	第1次/ 3月4日(水) 第2次/ 3月24日(火)
文学部 文学科 25名		外国語(90分/75点) 国語(90分/75点)	英語 国語	大学入学共通テストおよび2月17日(火)	2月26日(木)

※入学試験内容については変更される場合があります。入試要項を必ずご確認ください。

大学入学共通テストの受験が必須の方式

〈2025年度一般選抜結果〉

学部	入試制度	募集人員	志願者数			受験者数(A)			合格者数(B)			補欠者数						実質倍率(※)	
			男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	発表者数			合格者数(C)				
文化構想学部	一般選抜	一般選抜	330	3,824	3,522	7,346	3,615	3,376	6,991	340	325	665	145	93	238	24	10	34	10.0
		英語4技能テスト利用方式	110	1,278	1,957	3,235	1,244	1,895	3,139	210	238	448	—	—	—	—	—	—	7.0
		共通テスト利用方式	35	644	736	1,380	520	622	1,142	101	132	233	—	—	—	—	—	—	4.9
	学部計	475	5,746	6,215	11,961	5,379	5,893	11,272	651	695	1,346	145	93	238	24	10	34	8.2	
文学部	一般選抜	一般選抜	260	4,571	3,919	8,490	4,244	3,710	7,954	375	304	679	144	90	234	67	50	117	10.0
		英語4技能テスト利用方式	85	1,314	1,949	3,263	1,261	1,884	3,145	152	231	383	—	—	—	—	—	—	8.2
		共通テスト利用方式	25	655	683	1,338	505	534	1,039	94	100	194	—	—	—	—	—	—	5.4
	学部計	370	6,540	6,551	13,091	6,010	6,128	12,138	621	635	1,256	144	90	234	67	50	117	8.8	

※実質倍率は受験者数と合格者数(補欠合格者数を含む)から算出しています(A/B+C)

文化構想学部・文学部 YouTube 

入学センターWebサイト 

早稲田大学 文化構想学部/文学部

〒162-8644 東京都新宿区戸山1-24-1 mail: toyama-adm@list.waseda.jp

早稲田 文化構想学部 早稲田 文学部

